
プリンタドライバ説明書
*Windows NT*版

目 次

はじめに	1
1. WindowsNT 用プリンタドライバについて	2
2. 「プリンタ」	3
3. 「バージョン」	4
4. 「用紙」	5
4-1. 「e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TASSHA」	5
4-2. 「SATOCe シリーズ」	7
4-3. 「SR400 シリーズ」	9
5. 「用紙」(MT/MR110w)	15
6. TrueType フォント	27
6-1. 「e シリーズ、MT/MR110w、M-48Pro シリーズ、TASSHA」	27
6-2. 「SR400 シリーズ」	29
7. 動作モード	31
7-1. 「e シリーズ、MT/MR110w、M-48Pro シリーズ、TASSHA」	31
7-2. 「SATOCe シリーズ」	32
7-3. 「SR400 シリーズ」	33
8. その他	34
9. 拡張処理設定	36
10. デバイスの設定	38
10-1. 「e シリーズ、MT/MR110w、M-48Pro シリーズ、TASSHA」	38
10-2. 「SATOCe シリーズ」	39
10-3. 「SR400 シリーズ」	40
11. ユーティリティ(SR400 シリーズのみ)	41
12. クリエイトフォント	42
13. ダウンロードフォント	45
14. ユーティリティ(SR400 シリーズ以外)	46
15. プロパティの保存・読みだし	47
16. テスト印字	48
17. 言語選択	49
18. サトー専用ポートの追加設定手順	50
18-1. サトー専用ポートの追加手順	50
18-2. サトー専用ポート設定手順	52

はじめに

本書で説明しているプリンタドライバ画面は、特に断りがない限り MR400e、SR400 シリーズを使用しています。そのため、実際にお使いになるプリンタ機種によっては、画面構成が異なる場合がありますので、ご了承ください。

なお、WindowsNT4.0 は、マイクロソフト社のサポートが終了しておりますので、プリンタドライバは提供いたしますが、サポートは行いませんので、ご了承ください。

プリンタドライバプロパティ画面は、下記のグループに分けて説明しております。

e シリーズ	:	MR400e、MR410e、MR600e、MR610e、MT400e、MT410e
SATOCe シリーズ	:	TR400e、TR410e
M-48Pro シリーズ	:	M-48Pro8、M-48Pro12、M-48Pro24
SR400 シリーズ	:	SR408、SR412、SR424
MT/MR110w	:	MR110w、MT110w
TASSHA	:	TASSHA

1. WindowsNT 用プリンタドライバについて

WindowsNT 用 MR400e シリーズのプリンタドライバは、「ドキュメントの規定値」として独自に「プリンタ」、「用紙」、「動作モード」、「その他」、「デバイスの設定」、「クリエイトフォント」、「ダウンロードフォント」、「ユーティリティ」、「テスト印字」、「TrueType フォント」の 10 個のタブを所有しており、各タブにおいて様々な設定が可能です。

ドキュメントの規定値を設定する為には、図 1 に示すように「プリンタ」フォルダの中にある、MR400e シリーズプリンタを選択し、「ファイル(F)」->「ドキュメントの規定値(L)...」メニューを選択するか、右クリックして「ドキュメントの規定値(L)...」メニューを選択してください。

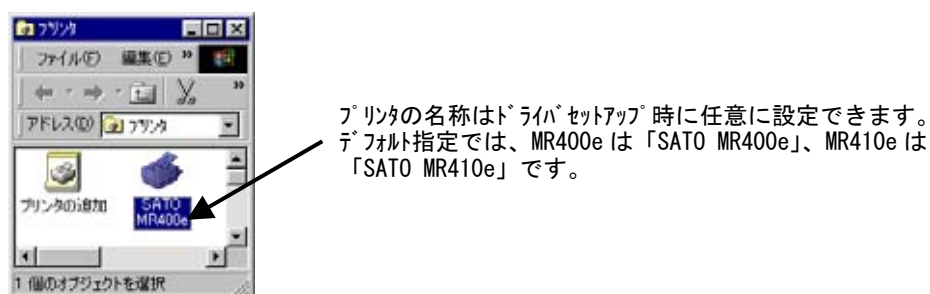


図 1 プリンタフォルダ画面

注意 1) 「ドキュメントの規定値」で設定可能な項目には、「プリンタ設定ツール」で設定可能な項目と重複するものがありますが、プリンタドライバを使用して印字を行う場合は「ドキュメントの規定値」での設定が有効となります。またアプリケーションソフトの印刷ダイアログから呼び出すプロパティでは、一時的な設定変更を目的としており、機能も限定されています。

注意 2) SR400 シリーズのプリンタドライバは、「バージョン」、「用紙」、「動作モード」、「拡張処理設定」、「クリエイトフォント」、「ユーティリティ」、「TrueType フォント」の 7 個のタブがあります。

2. 「プリンタ」

SR400 シリーズ以外で使用する画面になります。

図 2 に「プリンタ」画面を示します。ここではドライバのバージョン情報が表示されます。

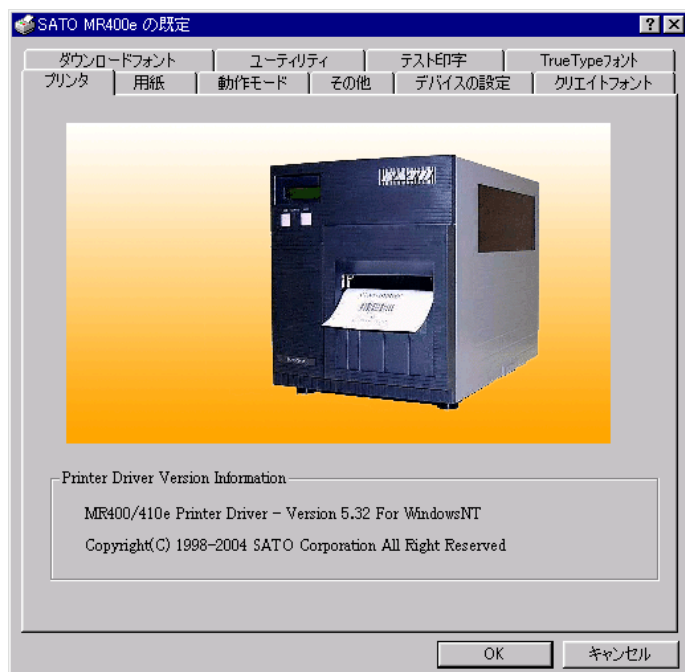


図 2. 「プリンタ」画面

3. 「バージョン」

SR400 シリーズでのみ使用する画面になります。

図 3 に「バージョン」画面を示します。ここではドライバのバージョン情報が表示されます。



図 3. 「バージョン」画面

4. 「用紙」

4-1. 「e シリーズ、M-48Pro シリーズ、TASSHA」

図 4-1 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

- (1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(5)「用紙登録」により登録してください。
- (2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。
- (3) 印字エリア外の基点を補正します。通常は0です*。
- (4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。
- (5) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 4-2 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。
- (6) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（「フリーサイズ」の設定値は適用できません）。
- (7) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。
- (8) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 4-3 に示す画面が表示されます。

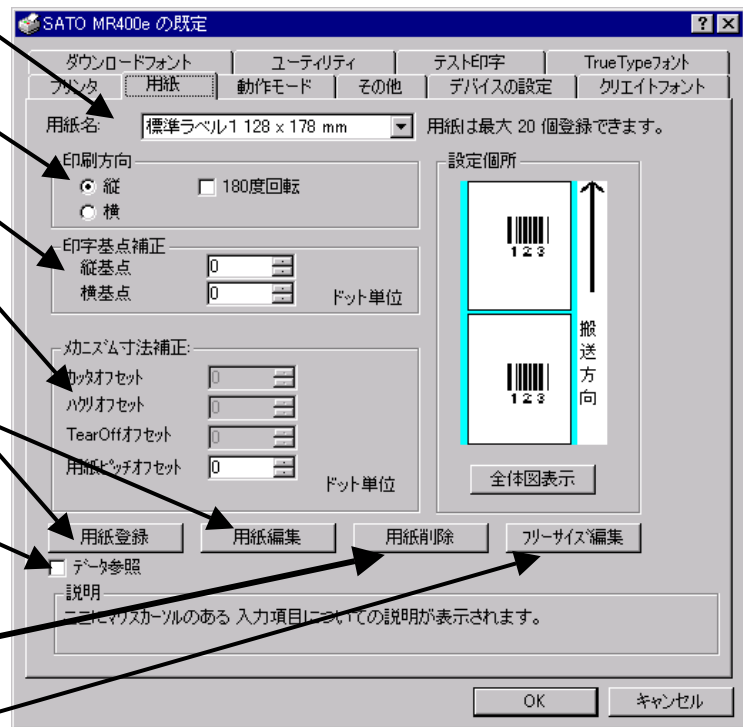


図 4-1. 「用紙」画面

- (9) 登録する用紙の名称を設定します。
- (10) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。
- (11) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常はAです。
- (12) 設定する各項目の単位を設定します。
- (13) 登録する用紙のサイズを設定します。*) キヤップサイズは通常 3.00 (mm) です。
- (14) 印字可能領域の左端位置を設定します。
- (15) 印字可能領域の上端位置を設定します。
- (16) 印字可能領域の幅を設定します。*)
- (17) 印字可能領域の高さを設定します。*)
- (18) センサ禁止モードの印字停止位置を設定します。

*) 詳細に関しては、P. 12 「用紙について」を参照してください。

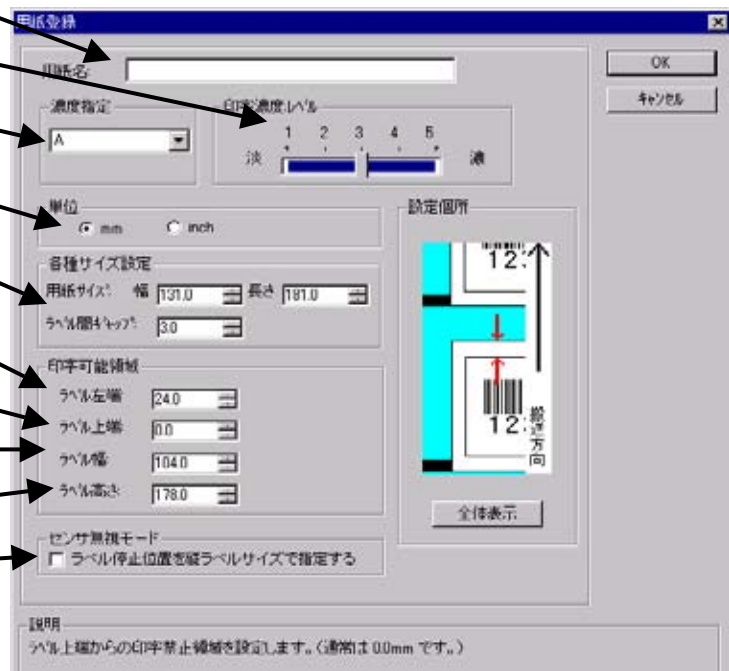


図 4-2. 「用紙登録」画面

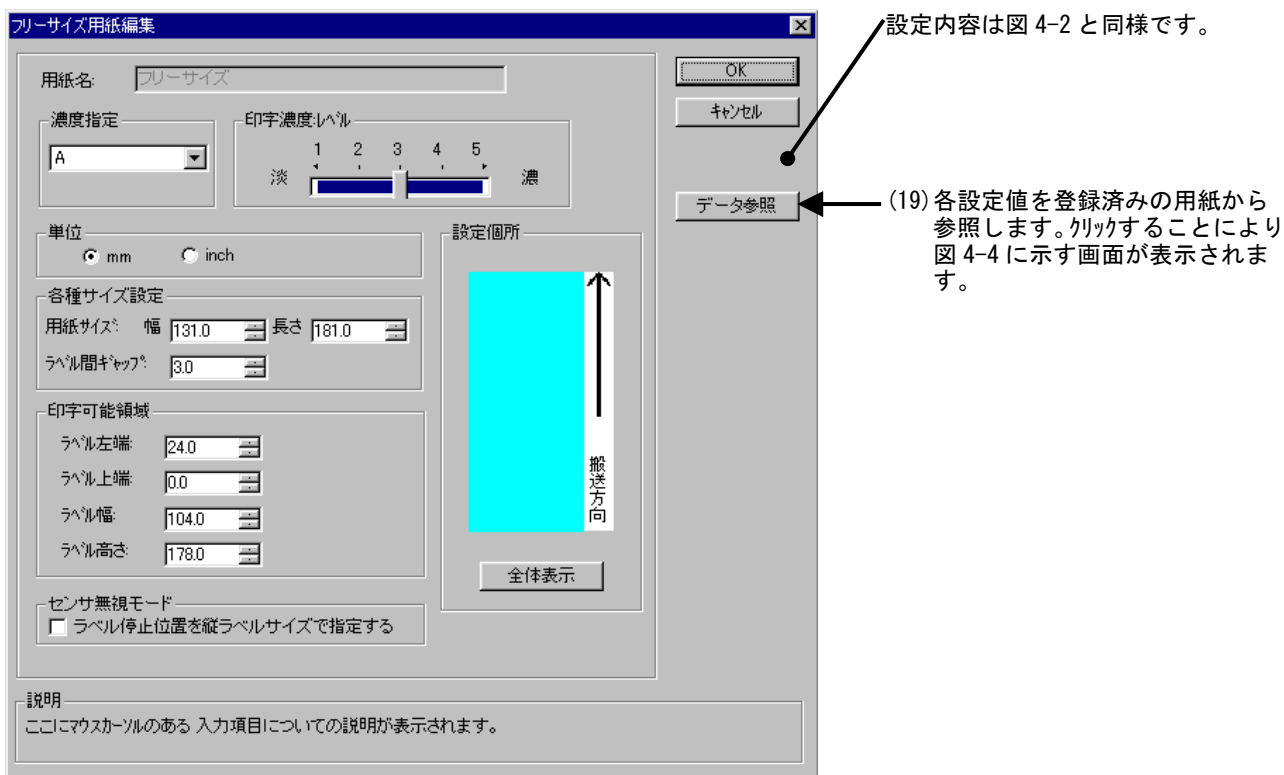


図 4-3. 「フリーサイズ用紙編集」画面



図 4-4. 「参照用紙選択」画面

4-2. 「SATOCe シリーズ」

図 4-5 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

- (1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(5)「用紙登録」により登録してください。
- (2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。
- (3) 印字エリア外の基点を補正します。通常は 0 です*。
- (4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。「デバイスの設定」タブにて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (5) 用紙の基準位置を補正します。「デバイスの設定」タブにて情報を取得すると用紙の初期値になります。
- (6) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 4-6 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。
- (7) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（「フリーサイズ」の設定値は適用できません）。
- (8) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。
- (9) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 4-7 に示す画面が表示されます。

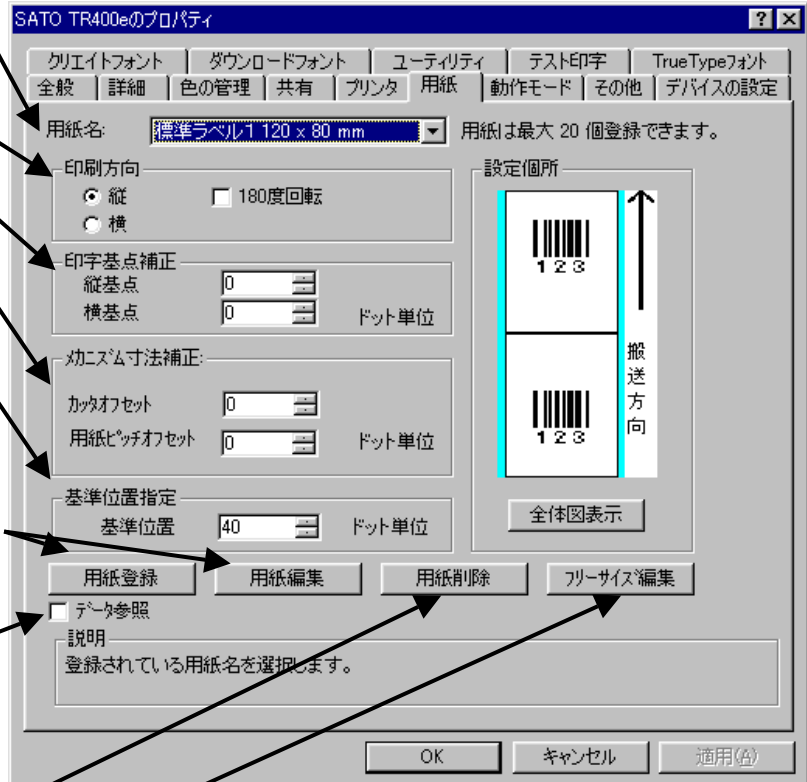
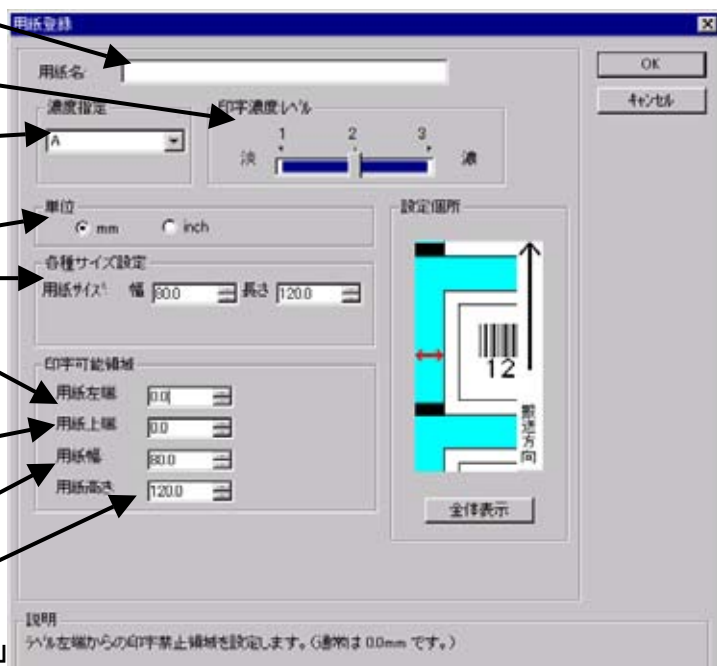


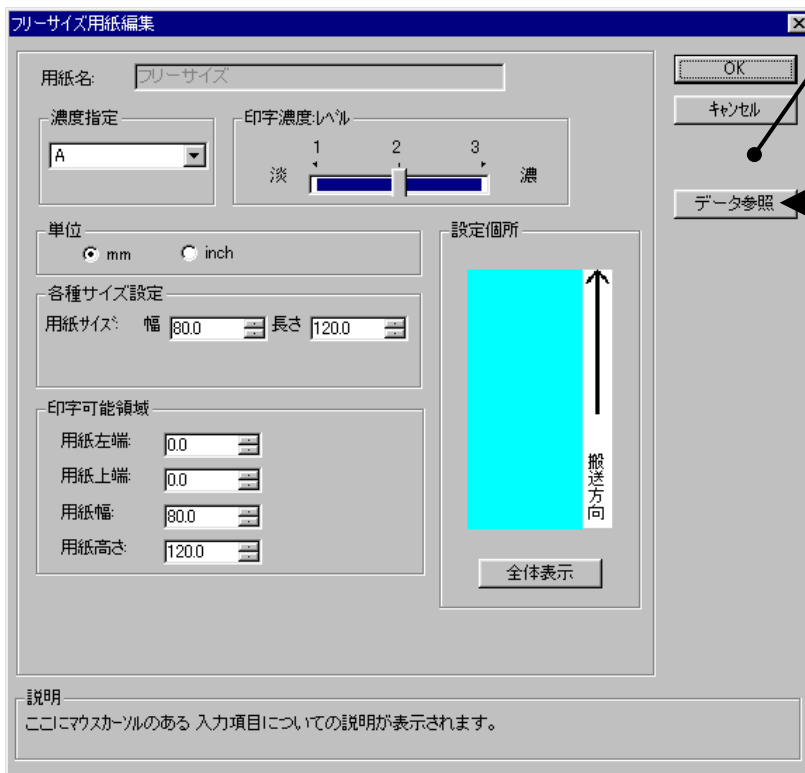
図 4-5. 「用紙」画面

- (10) 登録する用紙の名称を設定します。
- (11) 登録する用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は 3 です。
- (12) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を設定します。通常は A です。
- (13) 設定する各項目の単位を設定します。
- (14) 登録する用紙のサイズを設定します*。
- (15) 印字可能領域の左端位置を設定します*。
- (16) 印字可能領域の上端位置を設定します*。
- (17) 印字可能領域の幅を設定します*。
- (18) 印字可能領域の高さを設定します*。



*) 詳細に関しては、P. 12 「用紙について」を参照してください。

図 4-6. 「用紙登録」画面



設定内容は図 4-6 と同様です。

(19) 各設定値を登録済みの用紙から参照します。クリックすることにより図 4-8 に示す画面が表示します。

図 4-7. 「フリーサイズ用紙編集」画面

(20) 設定値を参照する用紙を選択します。

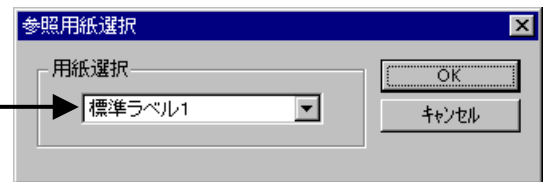
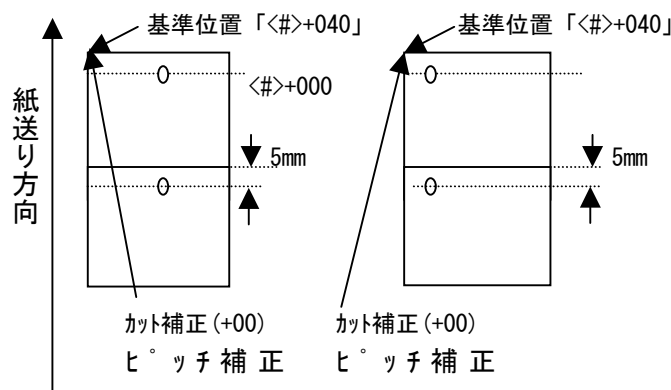


図 4-8. 「参照用紙選択」画面

※基準位置の設定

「センタホールタグ」、「横ホールタグ」を使用した場合、下記のように基準位置を補正する必要があります。「デバイスの設定」タブの「情報を取得」にて情報を取得することで、プリンタにセットされている用紙情報をもとに初期値をセットします。初期値で基準位置が合わない場合は、値を変更してください。



4-3. 「SR400 シリーズ」

図 4-9 に「用紙」画面を示します。ここでは使用する用紙に関する各種設定を行います。

- (1) 使用する用紙を選択します。使用する用紙が登録されていない場合は(5)「用紙登録」により登録してください。
- (2) 用紙搬送方向に対する印刷方向を設定します。
- (3) 印字エリア外の基点を補正します。通常は0です*。
- (4) 各仕様のプリンタにおける、用紙搬送量を補正します。
- (5) 「用紙登録」ボタンをクリックすることにより、図 4-10 に示す「用紙登録」画面が表示されます。「用紙編集」をクリックした場合は「用紙名」に表示されている用紙の編集になるだけで、設定内容は同じです。
- (6) チェックしておくことにより、「用紙登録」を選択した際の初期値に、「用紙名」に表示されている用紙の設定値を適用します（フリーサイズの設定値は適用できません）。
- (7) 「用紙名」に表示されている登録済み用紙を削除します。
- (8) 「フリーサイズ」用紙の編集をします。図 4-11 に示す画面が表示されます。

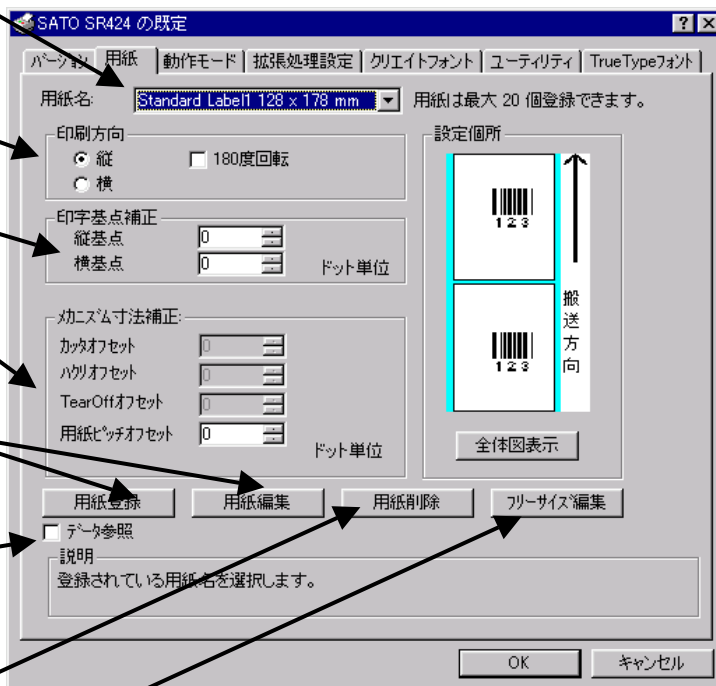


図 4-9. 「用紙」画面

- (9) 登録する用紙の名称を設定します。
- (10) 登録する用紙を使用する際の印字濃度を指定します。通常はAです。
- (11) 登録する用紙用紙を使用する際の濃度レベルを設定します。通常は3です。
- (12) 登録する用紙のサイズを設定します。
- (13) センサ禁止モードの印字停止位置を設定します。

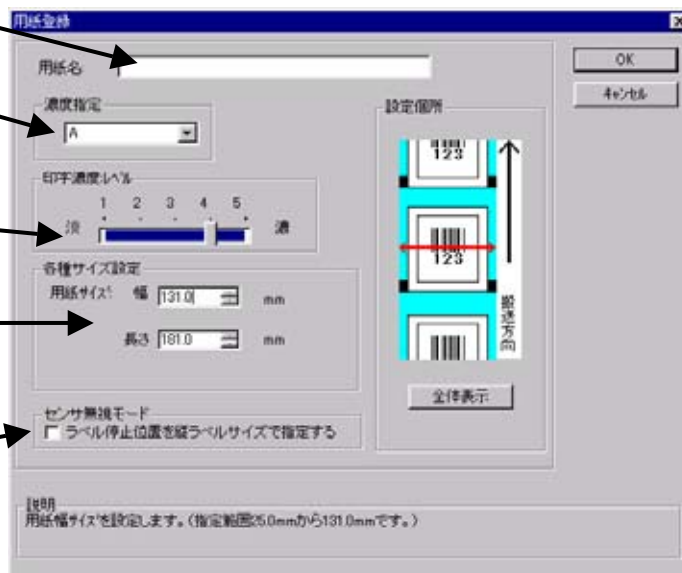


図 4-10. 「用紙登録」画面

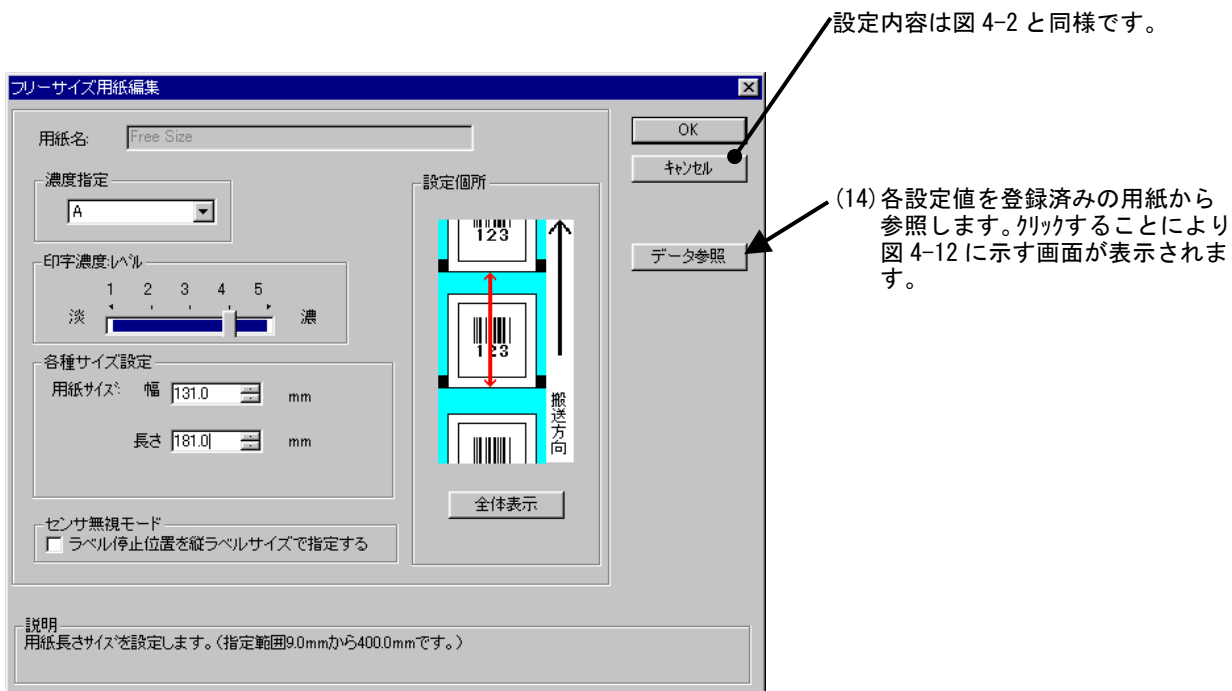


図 4-11. 「フリーサイズ用紙編集」画面



図 4-12. 「参照用紙選択」画面

***) 用紙について**

①用紙の規格

本プリンタで使用できる用紙は、SBPL「概要」を参照してください。

縦サイズ、横サイズ及びラベル間ギャップサイズの定義を図 4-13 に示します。表 4-1 は、MR400e で使用可能な用紙サイズの規格を示します。

図 4-2 や図 4-3 に示されている「各種サイズ設定」欄の「用紙サイズ：幅」や「用紙サイズ：長さ」に値を設定する際には、どの用紙タイプを使用する場合においても、便宜上「(a) のりなしタグ・裏アイマーク」に示してある「横サイズ」「縦サイズ」の定義を利用してください。

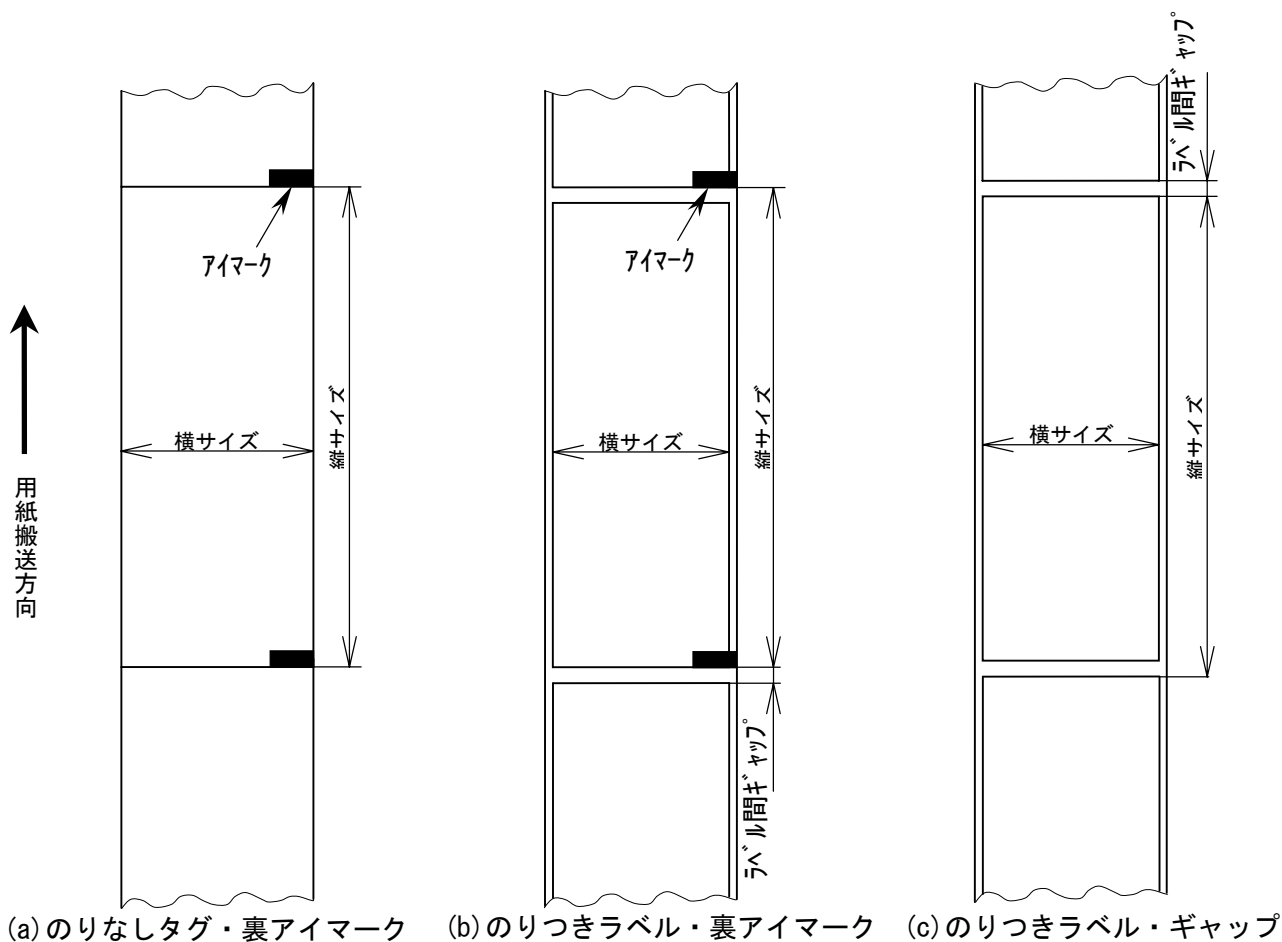


図 4-13. 用紙タイプと各サイズの定義

表 4-1. 使用可能な用紙サイズの規格

単位 (mm)

動作	方向	のりつきラベル	のりなしタグ (ラベルの台紙)
連続動作	縦サイズ	6~397	9~400
	横サイズ	22~128	25~131
カット動作	縦サイズ	17~397	20~400
	横サイズ	22~128	25~131
ハクリ動作	縦サイズ	17~397	
	横サイズ	22~128	
ティアオフ動作*	縦サイズ	6~397	9~400
	横サイズ	22~128	25~131

*発行枚数や用紙サイズ、種類により規制する場合があります。

②基準位置

ラベルに印字する時にプリンタが基準にしている点を基準位置といいます。図 4-14 (a) に示すように基準位置の横位置は用紙の左端、縦位置はプリンタが使用するセンサ種によって異なり、反射センサ使用時はアイマークの下端、透過センサ使用時はラベルの先頭になります。ただし使用する用紙の幅が幅 107 (mm) 以上の場合は、図 4-14 (b) に示すようにサーマルヘッドの左端が基準位置の横位置になります。

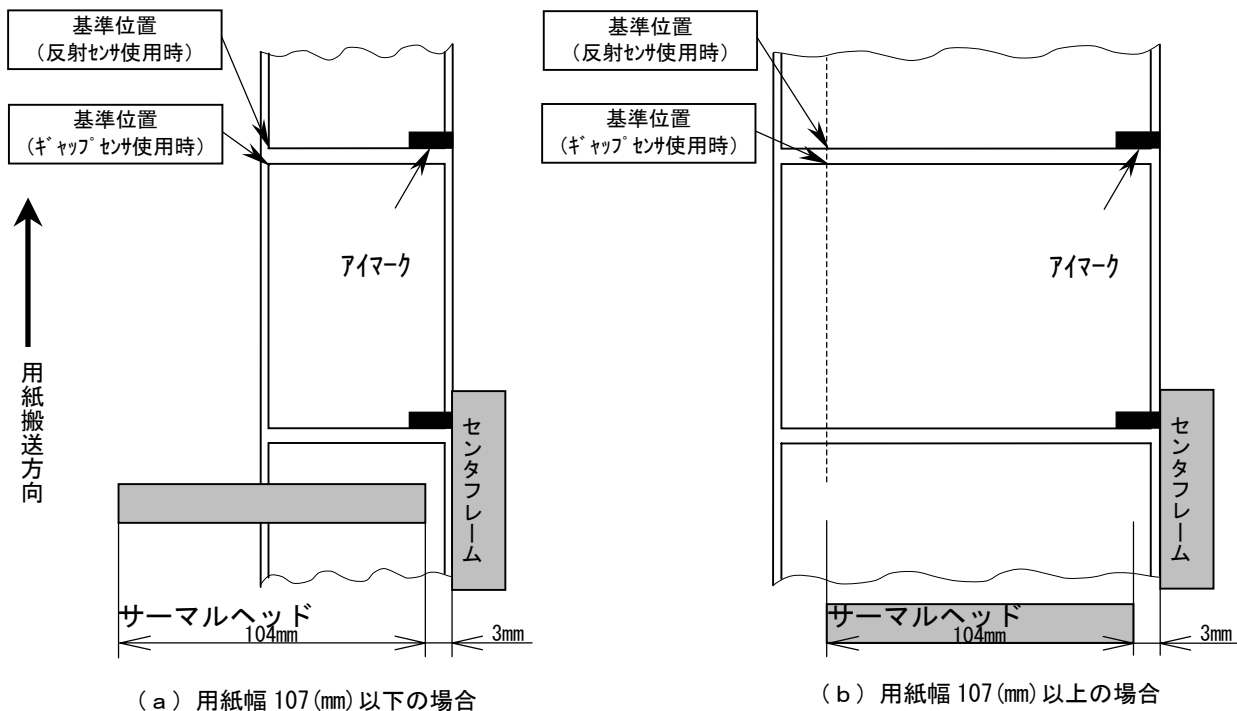


図 4-14. 基準位置

③基点

基点は印字位置を決める為の原点であり、基準位置から基点補正により設定された位置になります。基点補正を行わない場合は基準位置が基点となります。

図 4-1 に示されている「印字基点補正」欄の「縦基点」「横基点」に値を設定することにより、図 4-15 に示すようにレイアウト全体の印字位置を補正することができます。

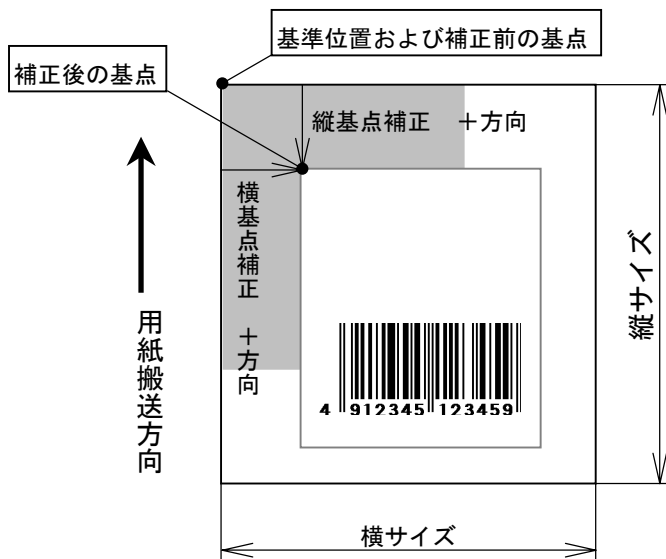


図 4-15. 基点補正

④印字可能領域

本プリンタで使用可能な用紙の最大幅は 131 (mm) ですが、印字部であるサーマルヘッドの幅は 104 (mm) である為、印字可能な領域の最大幅は 104 (mm) となります。また図 4-16 に示すように、サーマルヘッドの取り付け位置が、用紙右端の固定位置となるセンタフレームより 3 (mm) 離れている為、常にラベル右端から幅 3 (mm) の領域が印字不可能な領域となります。そして用紙幅が 107 (mm) を越える場合にはラベル左端にも印字不可能な領域が生じます。

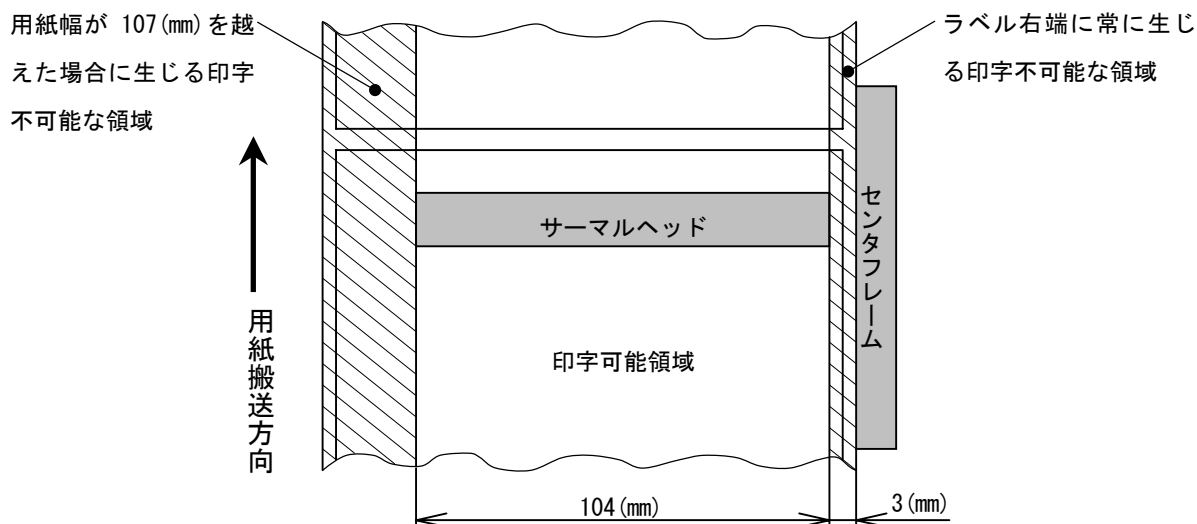


図 4-16. 印字可能領域

図 4-2 や図 4-3 に示されている「印字可能領域」欄の各設定項目には、使用する用紙の幅が 107 (mm) 以下であるか否か、また使用する用紙が「のりなしタグ」であるか「のりつきラベル」であるかに応じて、表 4-2 を参考に各値を入力してください。

表 4-2 (a). 「用紙サイズ：幅」が 107 (mm) 以下の場合

単位 (mm)

設定項目	のりなしタグ	のりつきラベル
ラベル左端	0	台紙左端からラベル左端までの値
ラベル上端	0	0 (アイマークセンサ使用時は、「ラベル間ギャップ」の値)
ラベル幅	「用紙サイズ：幅」 - 3	「用紙サイズ：幅」 - 3 - 「ラベル左端」
ラベル高さ	「用紙サイズ：長さ」	「用紙サイズ：長さ」 - 「ラベル間ギャップ」

表 4-2 (b). 「用紙サイズ：幅」が 107 (mm) より大きい場合

単位 (mm)

設定項目	のりなしタグ	のりつきラベル
ラベル左端	「用紙サイズ：幅」 - 107	「用紙サイズ：幅」 - 107
ラベル上端	0	0 (アイマークセンサ使用時は、「ラベル間ギャップ」の値)
ラベル幅	104	104
ラベル高さ	「用紙サイズ：長さ」	「用紙サイズ：長さ」 - 「ラベル間ギャップ」

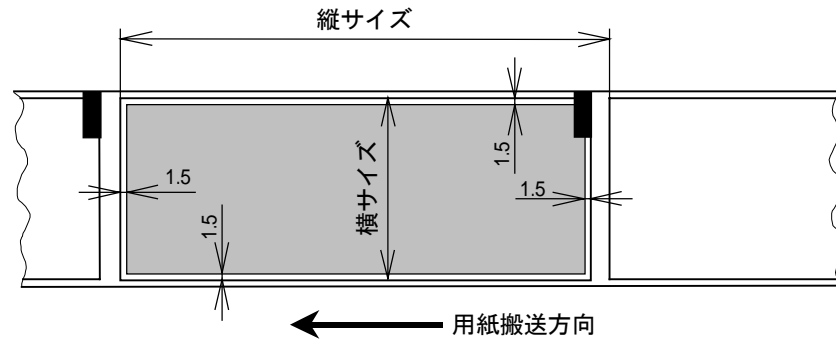
⑤用紙上の印字推奨領域

実際に印字レイアウトを作成する際には、用紙搬送に伴うピッチ方向の累積誤差や蛇行による印字ズレを考慮する必要があります。

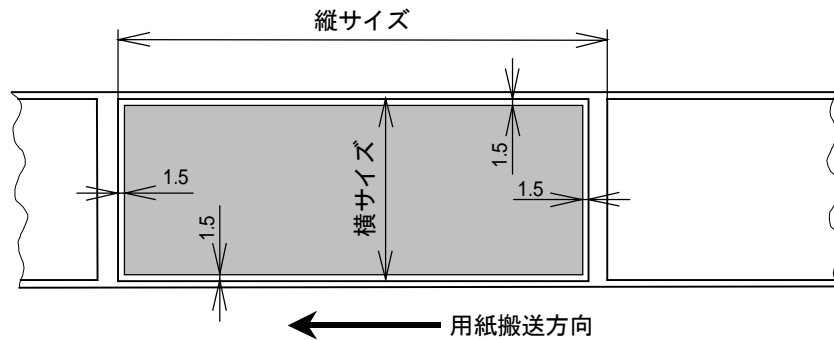
図 4-17 に印字推奨領域を示します。

■ : 印字推奨領域
単位 : mm

◆のりつきラベル・裏アイマーク◆



◆のりつきラベル・ギャップ◆



◆のりなしタグ・裏アイマーク◆

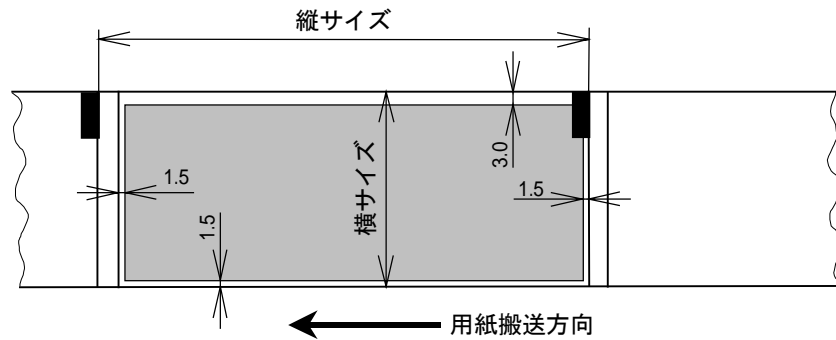


図 4-17. 印字推奨領域

5. 「用紙」 (MT/MR110w)

図 5-1 に「用紙」シートを示します。「用紙」シートには「印刷順序」「台紙コピー数」が新たに追加されており、これらは多面取りラベル使用時のための設定項目であり、横もしくは縦のラベル枚数が 1 に設定されている用紙を使用する際にはマスク表示されます。

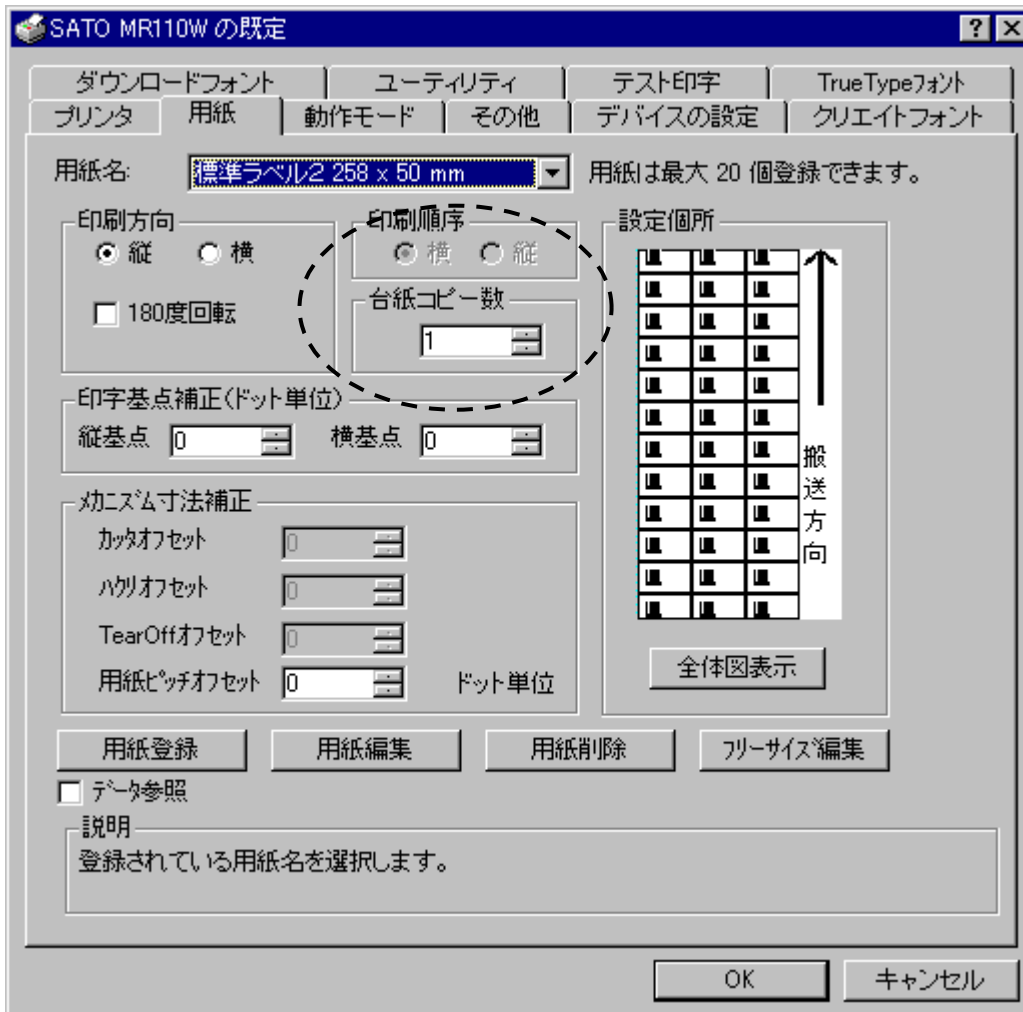


図 5-1. 「用紙」シート

ここで多面取りラベルの定義に関して解説いたします。

多面取りラベルは図 5-2 に示すように台紙上、縦横に複数枚配置された小ラベルの組合せにより 1 シートが構成されたものです。縦方向の配置枚数は後述いたします「用紙登録」において任意に設定が可能です。ここでの設定により 1 シートの単位が定義されます。

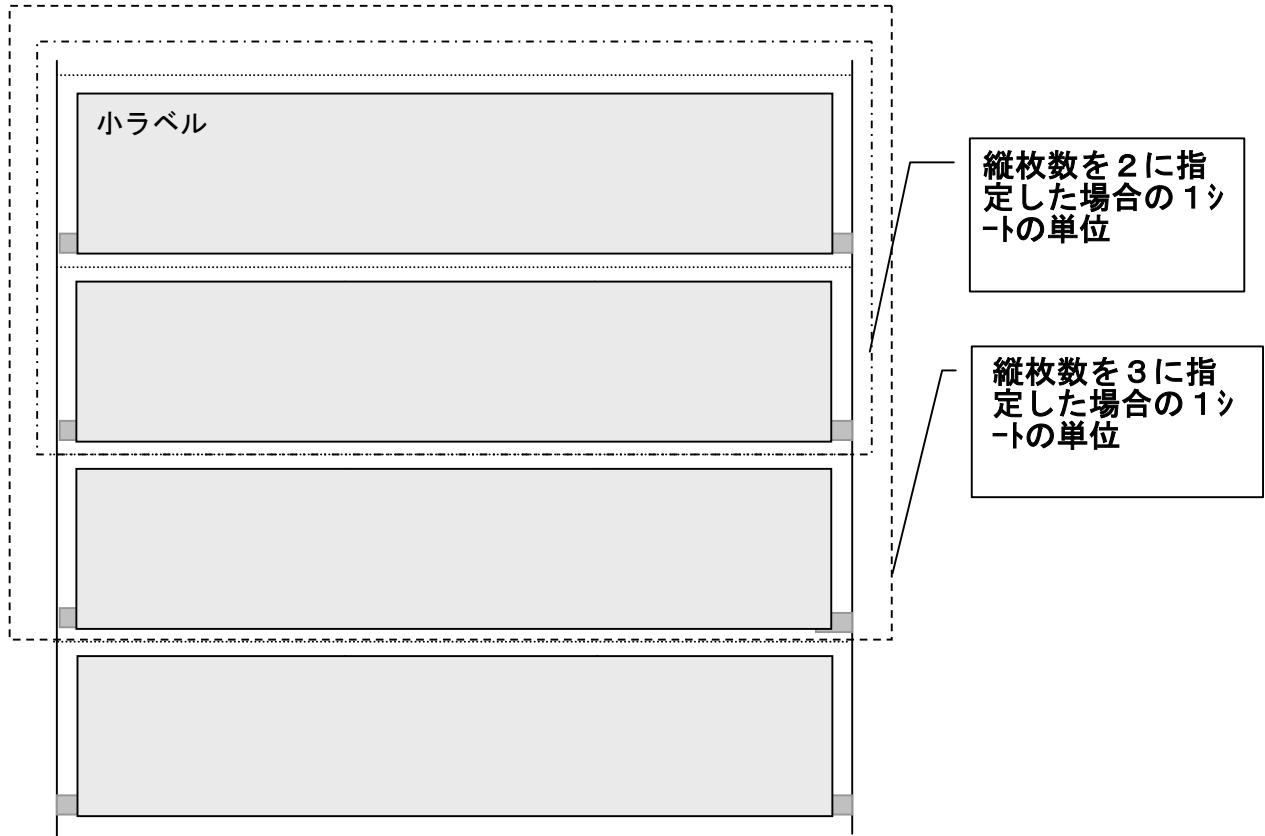


図 5-2. 多面取りラベル (横枚数を 3 に指定した場合の例)

(1) 印刷順序

多面取りラベルを使用する際の印刷順序を指定します。初期値は「横」です。

図 5-3 に「印刷順序」の「横」、「縦」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

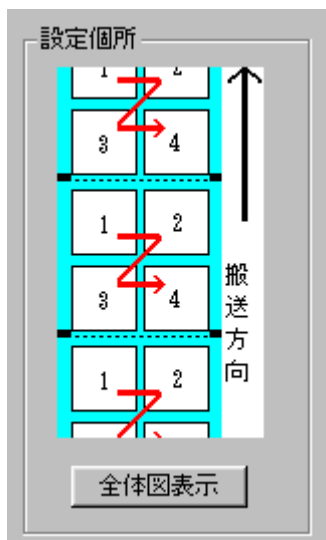


図 5-3(a) 印刷順序 横

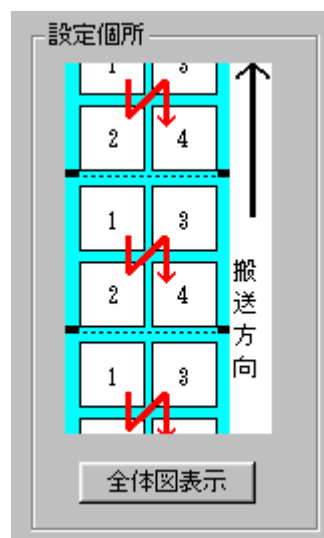


図 5-3(b) 印刷順序 縦

(2) 台紙コピー数

多面取りラベルを使用する際の、台紙単位でのコピー部数を指定します。初期値は「1」です。

図 5-4 に「台紙コピー数」に「2」を指定した際の動作概要を示します。

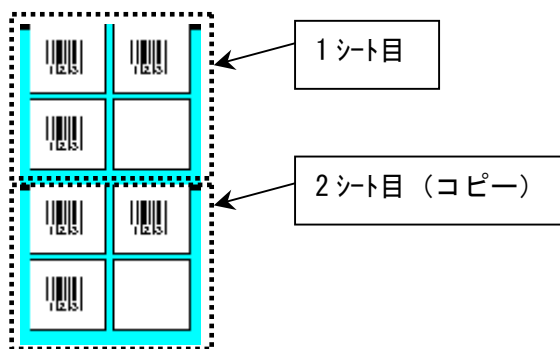


図 5-4. 台紙コピーの動作概要

(3) 用紙登録

図 5-5 に「用紙登録」ダイアログを示します。この画面は図 5-1 に示す用紙シート内の「用紙登録」ボタンを選択することにより表示されます。ここでは多面取りラベル用に新たに「ラベル配置設定」項目が追加されております。

図 5-5. 「用紙登録」ダイアログ

(4) ラベル配置設定

ここでは使用する用紙の1シート内におけるラベル配置に関する設定を行います。

①横枚数：1シート内におけるラベルの横方向配置枚数を指定します。

図5-5-1に「横枚数」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

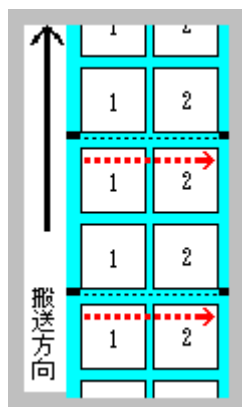


図5-5-1. 「横枚数」設定箇所表示

②縦枚数：1シート内におけるラベルの縦方向配置枚数を指定します。

図5-5-2に「縦枚数」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

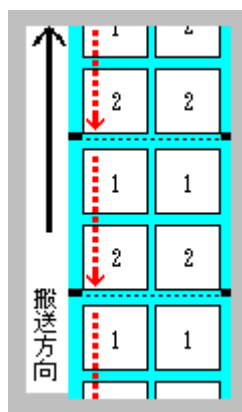


図5-5-2. 「縦枚数」設定箇所表示

③台紙幅：台紙幅を指定します。

図5-5-3に「台紙幅」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

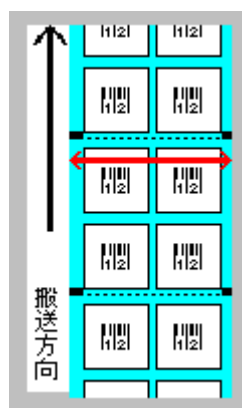


図5-5-3. 「台紙幅」設定箇所表示

④台紙長：台紙の長さを指定します。

図 5-5-4 に「台紙長」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

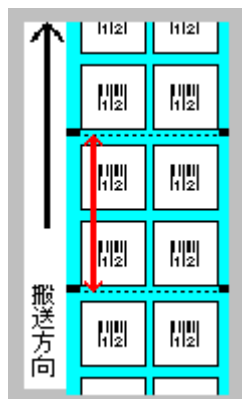


図 5-5-4. 「台紙長」設定箇所表示

⑤用紙領域

左端：台紙左端から一番左に配置されているラベルの左端までの長さを指定します。

図 5-5-5 に「左端」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

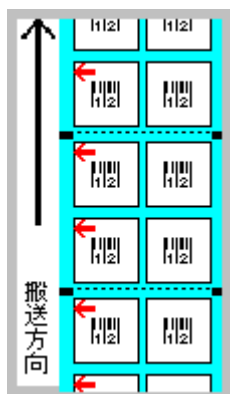


図 5-5-5. 「左端」設定箇所表示

⑥用紙領域

上端：台紙上端から一番上に配置されているラベルの上端までの長さを指定します。

図 5-5-6 に「上端」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

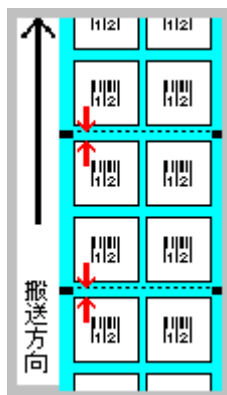


図 5-5-6. 「上端」設定箇所表示

⑦用紙領域

幅：台紙内の一番左に配置されているラベルの左端から一番右に配置されているラベルの右端までの長さを指定します。

図 5-5-7 に「幅」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

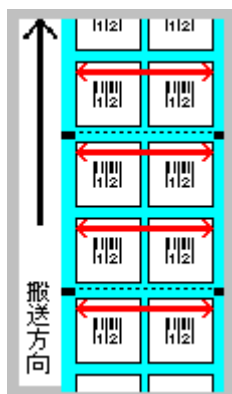


図 5-5-7. 「幅」設定箇所表示

⑧用紙領域

高さ：台紙内の一番上に配置されているラベルの上端から一番下に配置されているラベルの下端までの長さを指定します。

図 5-5-8 に「高さ」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

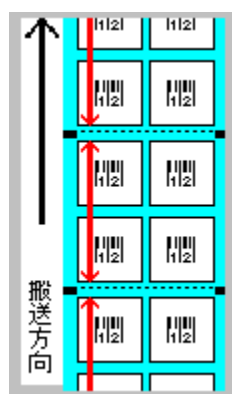


図 5-5-8. 「高さ」設定箇所表示

(5) 用紙サイズ設定

ここでは台紙内に配置されているラベルに対する設定を行います。

①幅：ラベルの幅を指定します。

図 5-6-1 に「幅」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

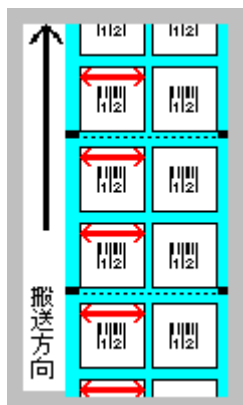


図 5-6-1. 「幅」設定箇所表示

②長さ：ラベルの長さを設定します。

図 5-6-2 に「長さ」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

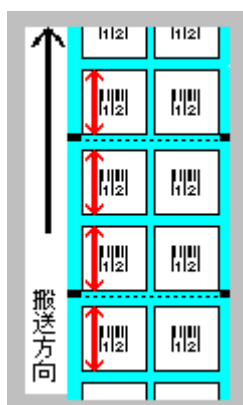


図 5-6-2. 「長さ」設定箇所表示

③印字可能領域

左端：ラベル左端からの印字禁止領域を指定します。

図 5-6-3 に「長さ」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

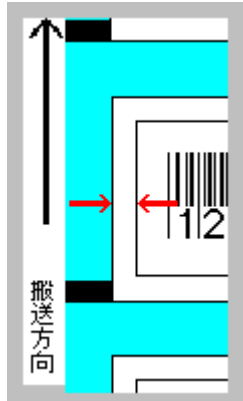


図 5-6-3. 「左端」設定個所表示

④印字可能領域

上端：ラベル上端からの印字禁止領域を指定します。

図 5-6-4 に「上端」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

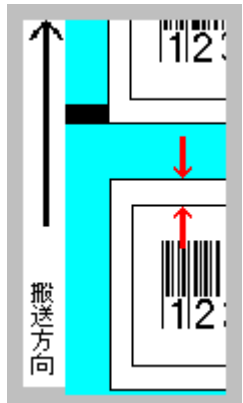


図 5-6-4. 「上端」設定個所表示

⑤印字可能領域

幅：ラベル上の印字可能領域幅を指定します。

図 5-6-5 に「幅」が選択されているときの「設定個所」表示を示します。

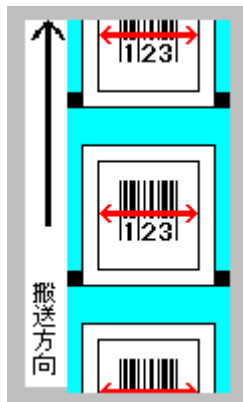


図 5-6-5. 「幅」設定個所表示

⑥印字可能領域

高さ：ラベル上の印字可能領域高さを指定します。

図 5-6-6 に「高さ」が選択されているときの「設定箇所」表示を示します。

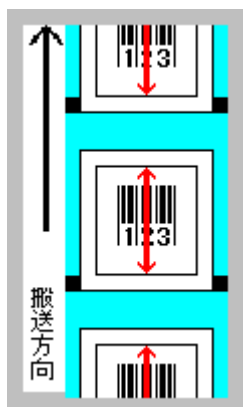


図 5-6-6. 「高さ」設定箇所表示

(6) 用紙編集

図 5-7 に「用紙編集」ダイアログを示します。この画面は図 5-1 に示す用紙シート内の「用紙編集」ボタンを選択することにより表示されます。ここでは既に登録されている用紙の設定を変更することができます。各設定項目の使用方法は「用紙登録」と同様です。

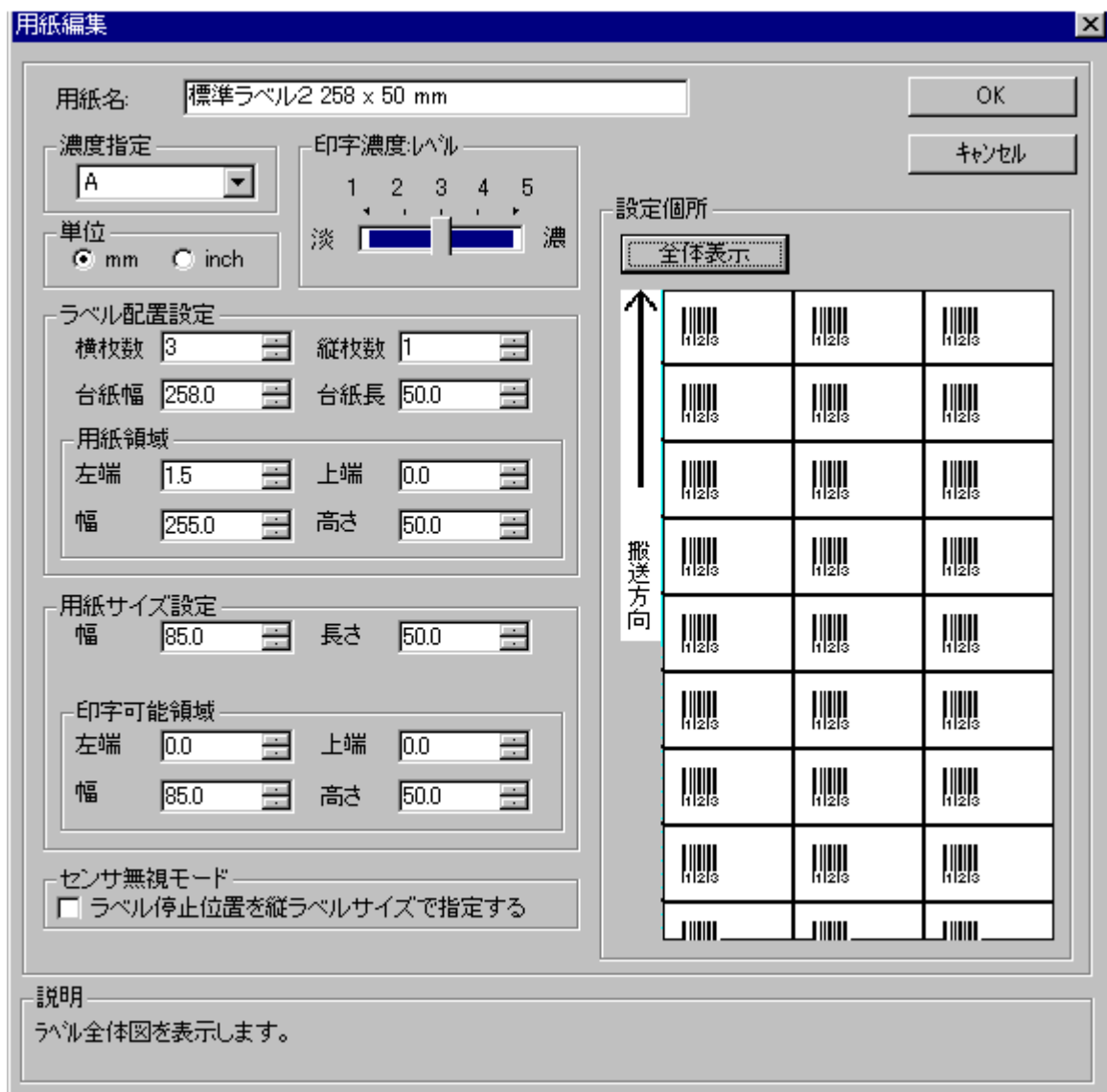


図 5-7. 「用紙編集」ダイアログ

(7) フリーサイズ用紙編集

図 5-8 に「フリーサイズ用紙編集」ダイアログを示します。この画面は図 5-1 に示す用紙シート内の「フリーサイズ用紙編集」ボタンを選択することにより表示されます。ここでは「フリーサイズ」用紙の設定を変更することができます。各設定項目の使用方法は「用紙登録」と同様です。

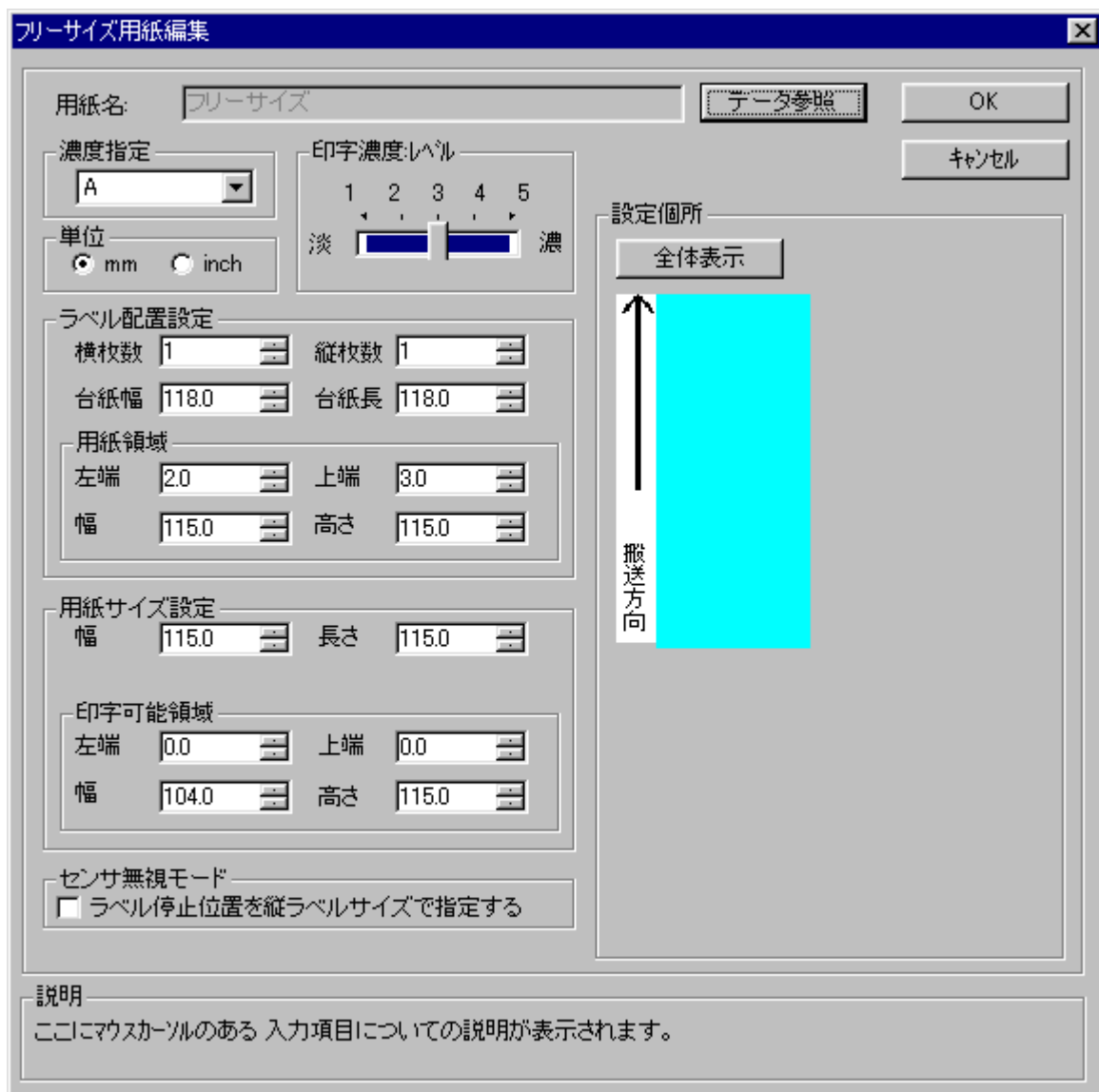


図 5-8. 「フリーサイズ用紙編集」ダイアログ

6. TrueType フォント

6-1. 「e シリーズ、MT/MR110w、M-48Pro シリーズ、TASSHA」

図 6-1 に「TrueType フォント」シートを示します。「TrueType フォント名」にはプリンタが内蔵している TrueType フォントが表示されます。



図 6-1. 「TrueType フォント」シート

※プリンタ内蔵の TrueType フォントが PC 側にもインストールされている必要があります。
2種の TrueType フォント「CG Times」および「CG Triumvirate」は、プリンタドライバのインストール時に PC にインストールされます。

TASSHA のみ「CG Times」、「CG Triumvirate」、「HG 明朝 L」、「HG ゴシック B」がインストールされます。

図 6-1 に示すシート内の「TrueType フォント名」に表示されているフォントを選択し、「詳細設定」ボタンを選択することにより、図 6-2 に示す「TrueType フォント詳細設定」ダイアログが表示されます。ここでは選択した TrueType フォントに対して以下の設定を行うことができます。



図 6-2. 「TrueType フォント詳細設定」ダイアログ

①フォント種別

レジデントフォントコマンドとして出力するのかグラフィックデータとして出力するのかを指定します。

②連番設定

選択した TrueType フォントに連番機能を設定することができます。この機能は「クリエイティブフォント」シートにおける「装飾フォント」の「連番設定」機能と同様です。

「フォント種別」において「ビットイメージコマンド」を指定した場合には連番設定項目はマスク表示され設定不可になります。

※TASSHA のみ連番設定の機能はありません。

6-2. 「SR400 シリーズ」

図 6-3 に「TrueType フォント」シートを示します。「TrueType フォント名」にはプリンタが内蔵している TrueType フォントが表示されます。

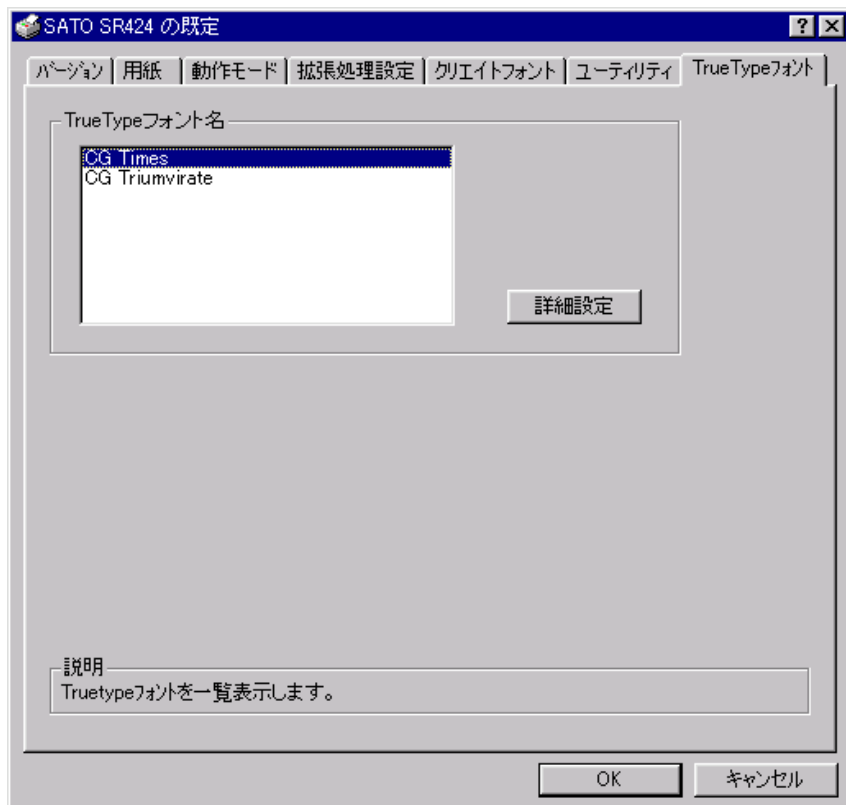


図 6-3. 「TrueType フォント」 ダイアログ

※プリンタ内蔵の TrueType フォントが PC 側にもインストールされている必要があります。
2 種の TrueType フォント「CG Times」および「CG Triumvirate」は、プリンタドライバのインストール時に PC にインストールされます。

図 6-3 に示すシート内の「TrueType フォント名」に表示されているフォントを選択し、「詳細設定」ボタンを選択することにより、図 6-4 に示す「TrueType フォント詳細設定」ダイアログが表示されます。ここでは選択した TrueType フォントに対して以下の設定を行うことができます。



図 6-4. 「TrueType フォント詳細設定」ダイアログ

①フォント種別

レジデントフォントコマンドとして出力するのかグラフィックデータとして出力するのかを指定します。

②連番設定

選択した TrueType フォントに連番機能を設定することができます。この機能は「クリエイティブフォント」シートにおける「装飾フォント」の「連番設定」機能と同様です。

「フォント種別」において「ビットイメージコマンド」を指定した場合には連番設定項目はマスク表示され設定不可になります。

7. 動作モード

7-1. 「e シリーズ、MT/MR110w、M-48Pro シリーズ、TASSHA」

図 7 に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) 文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。

(2) 文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。

(8) 印字速度を選択します。90度回転のバーコードや罫線などの印字レアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。

(9) 通信制御設定を指定します。

同期通信印刷
チェックBOXにチェックすることで同期通信印刷になります。

(4) 濃淡印字を行いません。

(5) 写真等を印字する場合に指定します(305dpi推奨)。

(6) 写真等を印字する場合に指定します(203dpi推奨)。

(7) 濃淡の境界がはっきりした行スト等を印字する場合に指定します。

図 7. 「動作モード」画面

※同期通信印刷

ラベルの印字完了を1枚(1アイテム)ごとに確認しながら出力します。

7-2. 「SATOCe シリーズ」

図 7-1 に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

-
- (1) 文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。
- (2) 文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。
- (3) タグのエッジにマークをつけます。
- (4) 印字速度を選択します。90度回転のバーコードや罫線などの印字レイアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。
- (5) 濃淡印字を行いません。
- (6) 写真等を印字する場合に指定します (TR410e 推奨)。
- (7) 写真等を印字する場合に指定します (TR400e 推奨)。
- (8) 濃淡の境界がはっきりした行スト等を印字する場合に指定します。
- (9) 通信制御設定を指定します。

同期通信印刷
 チェック BOX にチェックすることで同期通信印刷になります。

図 7-1. 「動作モード」画面

※仕分けマーク

仕分けマークは、「デバイスの設定」タブの「情報取得」をクリックし、現在プリンタに設定されている用紙によって、設定有効・無効の表示になります。

設定有効の用紙：「センターホールタグ」「横ホールタグ」「角Rタグ」「タグアイマーク」
 設定無効の用紙：「ラベルギャップ」「ラベルアイマーク」

※同期通信印刷

ラベルの印字完了を1枚（1アイテム）ごとに確認しながら出力します。

7-3. 「SR400 シリーズ」

図 7-2 に「動作モード」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) 文書中の文字列は指定されている色情報に関係無く黒色印字されます。

(2) 文書中の文字列は指定されている色情報を反映して階調印字されます。

(8) 印字速度を選択します。90度回転のパーコードや罫線などの印字レイアウトや使用用紙種により、印字速度・濃度の調整が必要になります。

(9) 通信制御設定を指定します。

(4) 濃淡印字を行いません。

(5) 写真等を印字する場合に指定します (SR412/424 推奨)。

(6) 写真等を印字する場合に指定します (SR408 推奨)。

(7) 濃淡の境界がはっきりした行スト等を印字する場合に指定します。

(10) 反射センサ、透過センサ、センサ無視の選択をします。

(11) 指定枚数印字後の動作を指定します。

同期通信印刷
 チェック BOX に
 チェックすること
 で同期通信印刷に
 なります。

BCC チェック
 BCC コードを付加
 するかを指定します。

図 7-2. 「動作モード」 画面

※同期通信印刷

ラベルの印字完了を 1 枚 (1 アイテム) ごとに確認しながら出力します。

※BCC チェック

BCC チェックを行うかを指定します。ESC+A~ESC+Z までの排他的論理和を計算し、1 バイト付加します。

8. その他

SR400 シリーズ以外で使用する画面になります。

図 8-1 に「その他」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

- (1) コントロールフォントによるカット処理を使用しません*。
- (2) コントロールフォントによるカット処理を使用します*。
- (3) 指定された枚数毎にカットします*。
- (4) 指定枚数カットを行いません。
- (5) 印刷終了時に用紙をカットします*。
- (6) 通常印刷を行います。
- (7) 印刷時、呼出しキーで指定されたオーバーレイデータと合成して印刷を行います。
- (8) プリンタのオーバーレイ領域に印字データを書き込みます。実際に印字は行われません。既にオーバーレイデータが格納されている場合は上書きします。「コメント」に入力したオーバーレイデータの説明も同時に登録されます。
- (9) 登録済みオーバーレイデータを削除します。
- (10) 登録済みオーバーレイデータの情報を取得します。

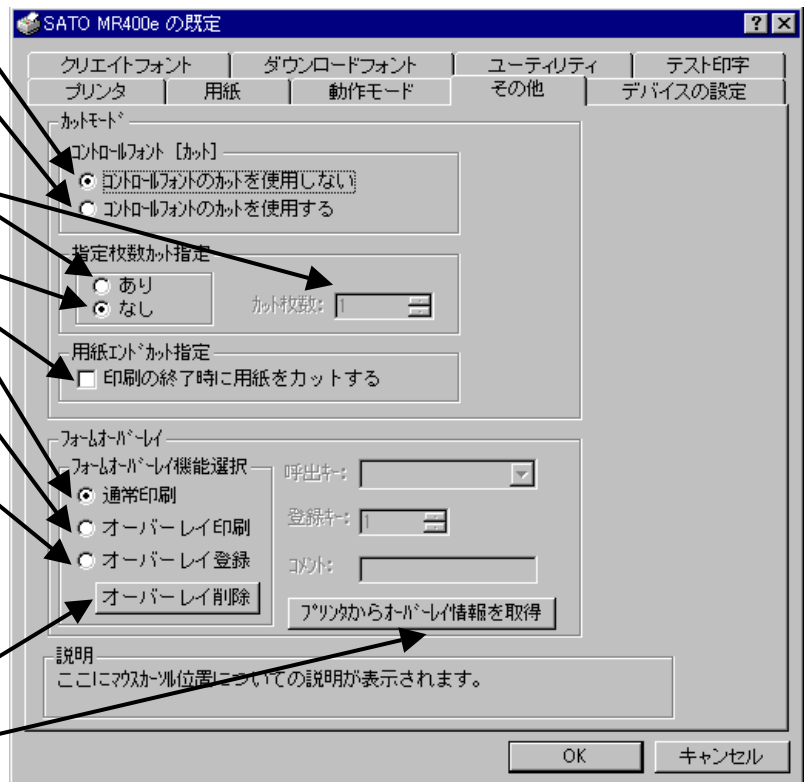


図 8-1. 「その他」画面

*) コントロールフォント

コントロールフォントのカットを使用すると、アプリケーションソフトにより印字レイアウトを作成すると同時に、そのレイアウトを印字する際のカット動作も指定することができます。カット指定コマンドには「CT」と「~」の2種類があり、コントロールフォント自体もコマンドの指定方法に応じて2種類あります。

① 「CT」および「~」のカット動作

両コマンド共に何枚毎にカットするのかを指定するものですが、印刷枚数に対する動作が次のように異なります。

例) 指定カット枚数 2、印刷枚数 3 を指定した場合

◇ 「CT」コマンドによるカット動作◇

2枚毎にカットし、全部で3枚発行します。

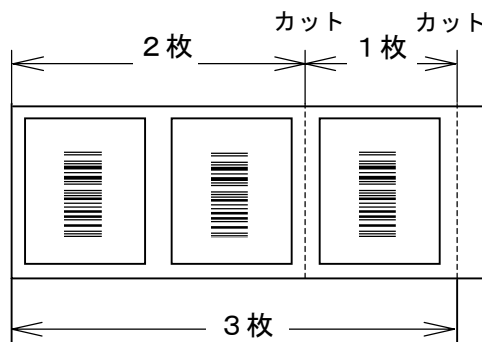


図 8-2. 「CT」コマンドによるカット動作

◇「~」コマンドによるカット動作◇

2枚毎にカットしたものを3部発行します。

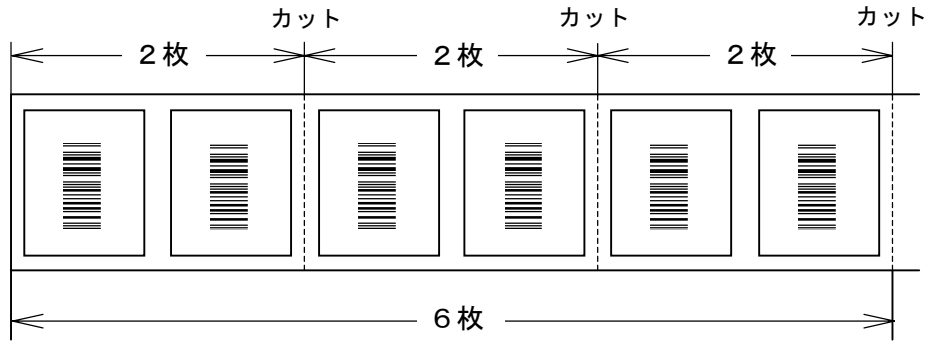


図 8-3. 「~」コマンドによるカット動作

②コントロールフォントの種類

コントロールフォントはコマンドの指定方法に応じて2種類あります。

◇プリンタコントロール(コマンド)による指定◇

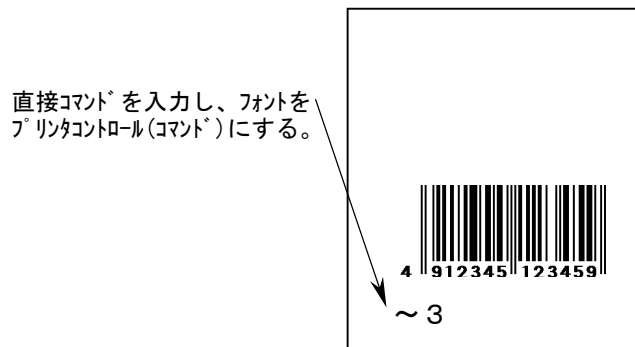
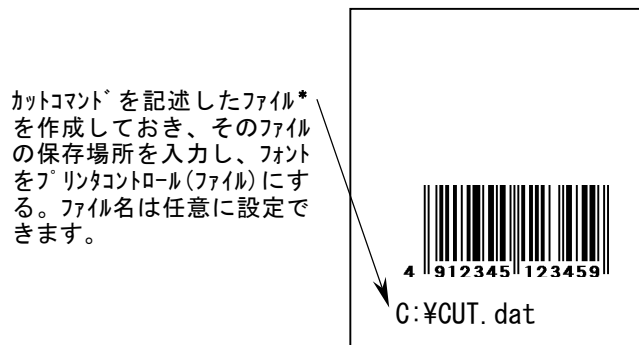


図 8-4. プリンタコントロール(コマンド)による指定

◇プリンタコントロール(ファイル)による指定◇



*ファイル記述例

・「CT」コマンド

ESC CT3

└─ 0~999 まで指定可能です。

└─ キャラクタコードで 0x1B です。

・「~」コマンド

ESC ~3

図 8-5. プリンタコントロール(ファイル)による指定

9. 拡張処理設定

SR400 シリーズでのみ使用する画面になります。

図 9-1 に「拡張処理設定」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

- (1) コントロールフォントによるカット処理を使用しません*。
- (2) コントロールフォントによるカット処理を使用します*。
- (3) 指定された枚数毎にカットします*。
- (4) 指定枚数カットを行いません。
- (5) 印刷終了時に用紙をカットします*。
- (6) 通常印刷を行います。
- (7) 印刷時、呼出しキーで指定されたオーバーレイデータと合成して印刷を行います。
- (8) プリンタのオーバーレイ領域に印字データを書き込みます。実際に印字は行われません。既にオーバーレイデータが格納されている場合は上書きします。「コメント」に入力したオーバーレイデータの説明も同時に登録されます。
- (9) 登録済みオーバーレイデータを削除します。
- (10) 登録済みオーバーレイデータの情報を取得します。

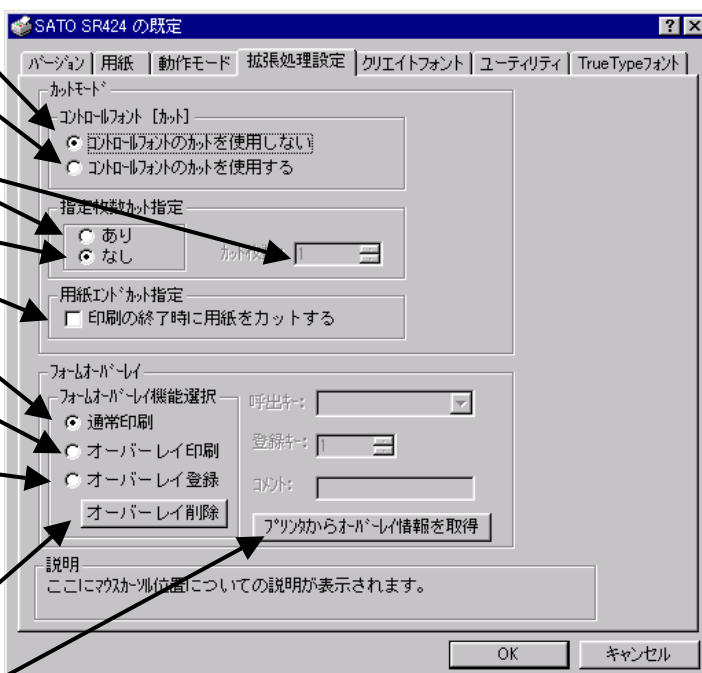


図 9-1. 「拡張処理設定」画面

*) コントロールフォント

コントロールフォントのカットを使用すると、アプリケーションソフトにより印字レイアウトを作成すると同時に、そのレイアウトを印字する際のカット動作も指定することができます。カット指定コマンドには「CT」と「~」の2種類があり、コントロールフォント自体もコマンドの指定方法に応じて2種類あります。

① 「CT」および「~」のカット動作

両コマンド共に何枚毎にカットするのかを指定するものですが、印刷枚数に対する動作が次のように異なります。

例) 指定カット枚数 2、印刷枚数 3 を指定した場合

◇ 「CT」コマンドによるカット動作◇

2枚毎にカットし、全部で3枚発行します。

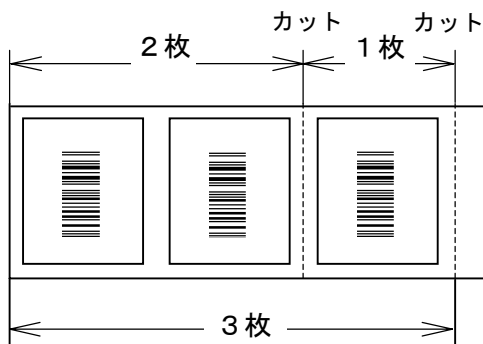


図 9-2. 「CT」コマンドによるカット動作

◇「~」コマンドによるカット動作◇

2枚毎にカットしたものを3部発行します。

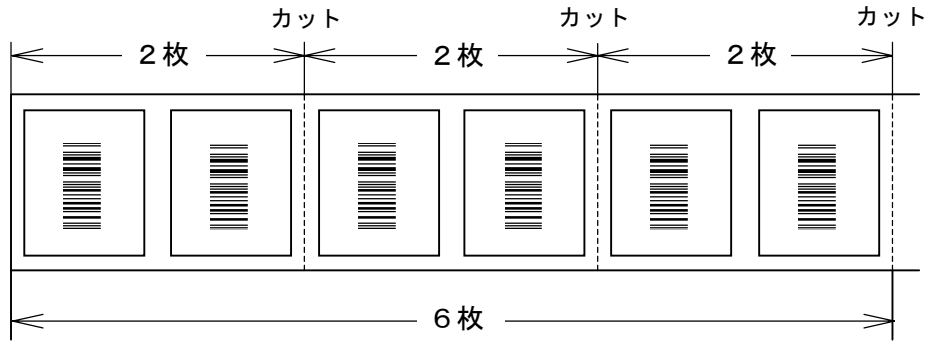


図 9-3. 「~」コマンドによるカット動作

②コントロールフォントの種類

コントロールフォントはコマンドの指定方法に応じて2種類あります。

◇プリンタコントロール(コマンド)による指定◇

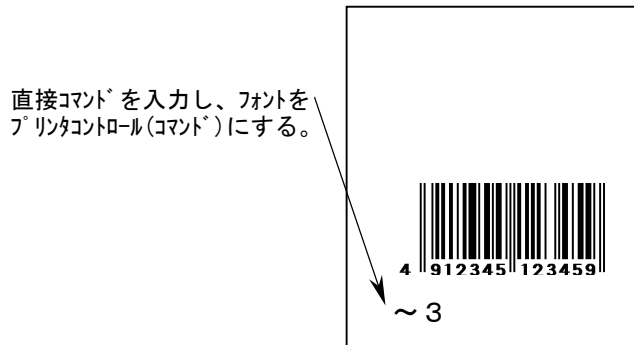
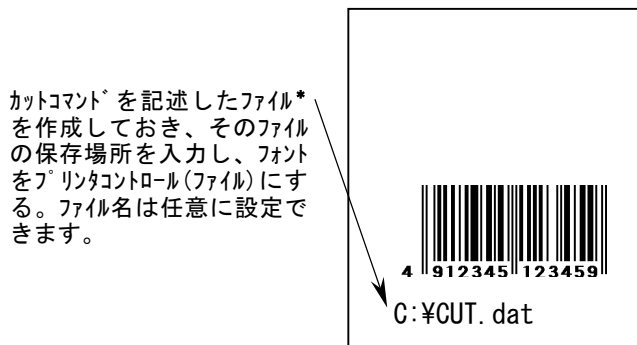


図 9-4. プリンタコントロール(コマンド)による指定

◇プリンタコントロール(ファイル)による指定◇



*ファイル記述例

・「CT」コマンド

ESC CT3

└─ 0~999 まで指定可能です。

└─ キャラクタコードで 0x1B です。

・「~」コマンド

ESC ~3

図 9-5. プリンタコントロール(ファイル)による指定

10. デバイスの設定

10-1. 「e シリーズ、MT/MR110w、M-48Pro シリーズ、TASSHA」

図 10 にデバイスの設定画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

(1) (2)の「情報取得」により取得したプリンタの設定を表示します。リストから設定を選択することにより一時的に設定を変更することも可能です。ただし、プリンタ本体のDSWが有効になります。

(2) 接続されているプリンタの情報を取得します。

(3) 印字解像度を指定します。
クリックすることにより図 10-1 に示す画面が表示されます。
MR400e、MR600e、MT400e
203dpi ⇄ 200dpi の切替えを指定します。
MR410e、MR610e、MT/MR110w、MT410e
305dpi ⇄ 300dpi の切替えを指定します。
注意：M-48Pro、TASSHA には印字解像度の機能はありません。

(4) 接続されているプリンタのファームウェア情報を取得します。

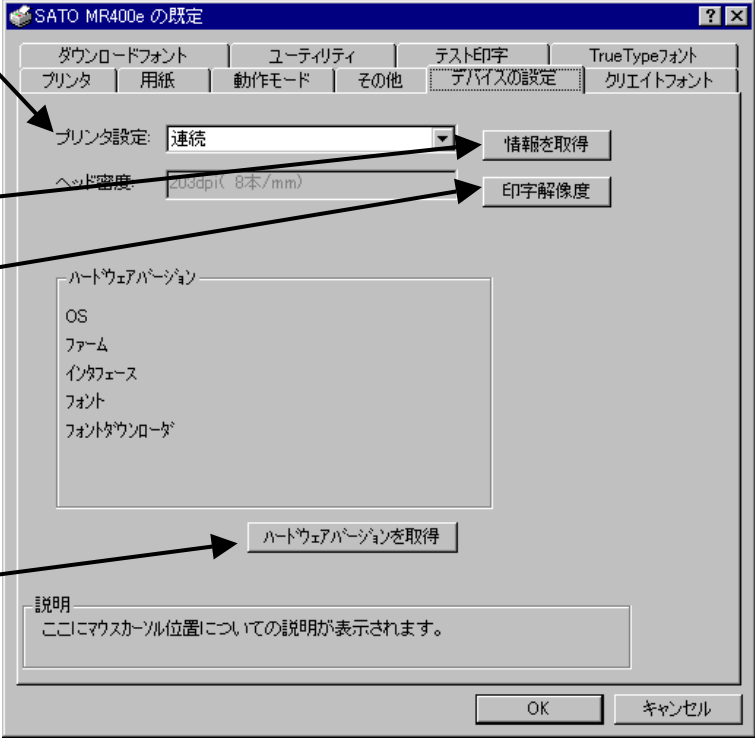


図 10. 「デバイスの設定」画面

印字解像度

ヘッド密度切替えを設定します。
通常は設定する必要はありません。

図 10-1
「OK」をクリックすると図 10-2 に移行
します。
「キャンセル」をクリックすると図 10 に移行
します。

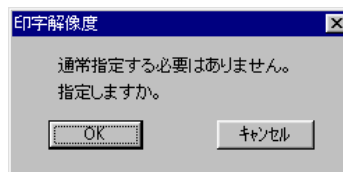


図 10-1. 「印字解像度の設定」画面

MR400e、MR600e、MT400e の場合
203dpi、200dpi の切替えを指定します。

MR410e、MR610e、MT/MR110w、MT410e の場合
305dpi、300dpi の切替えを指定します。

注意：M-48Pro、TASSHA には印字解像度の機能
はありません。



図 10-2. 「印字解像度の設定」画面

10-2. 「SATOCe シリーズ」

図 10-3 にデバイスの設定画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

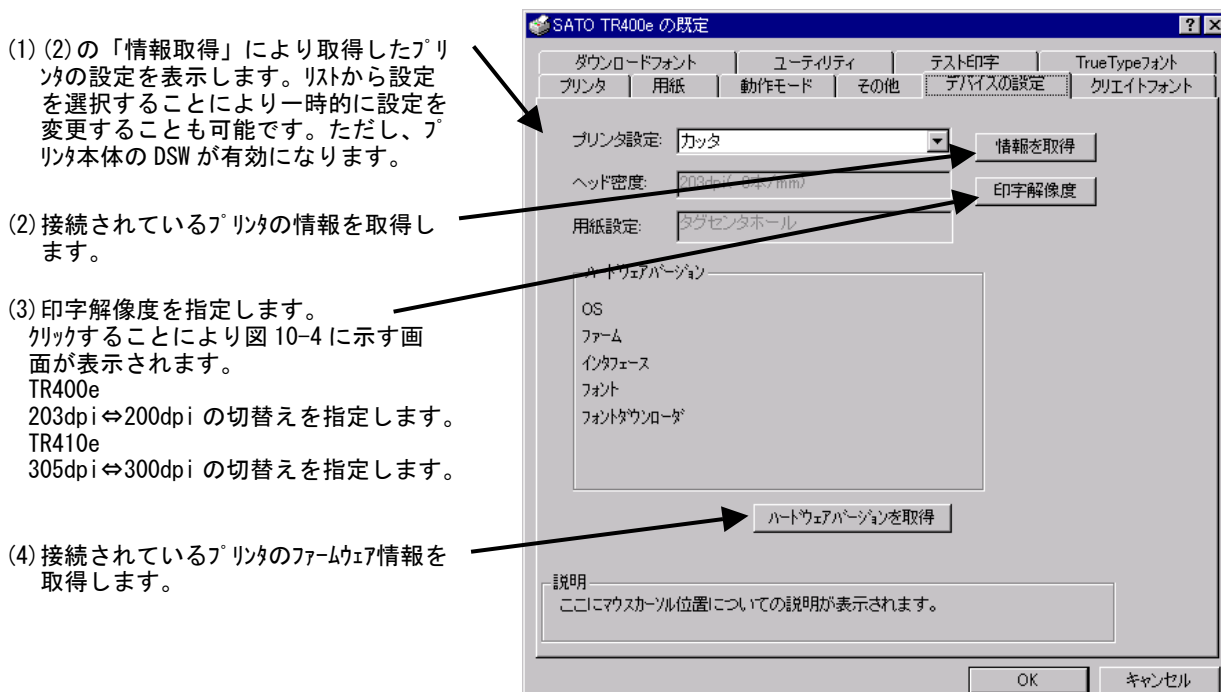


図 10-3. 「デバイスの設定」画面

印字解像度

ヘッド密度切替えを設定します。
通常は設定する必要はありません。

図 10-4
「OK」をクリックすると図 10-5 に移行します。
「キャンセル」をクリックすると図 10-3 に移行します。

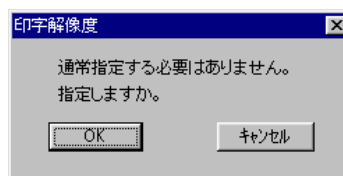


図 10-4. 「印字解像度の設定」画面

TR400e の場合
203dpi、200dpi の切替えを指定します。

TR410e の場合
305dpi、300dpi の切替えを指定します。



図 10-5. 「印字解像度の設定」画面

注意：プリンタドライバをインストールした後、使用するインターフェースにてパソコンとプリンタを接続し、必ず「情報の取得」をクリックしてください。

10-3. 「SR400 シリーズ」

図 10-6 にデバイスの設定画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

- (1) (2)の「情報取得」により取得したプリンタの設定を表示します。リストから設定を選択することにより設定を変更することも可能です。
※プリンタの設定により、本体優先、コマンド優先のどちらかになります。
- (2) 接続されているプリンタの情報を取得します。

- (3) 接続されているプリンタのファームウェア情報を取得します。

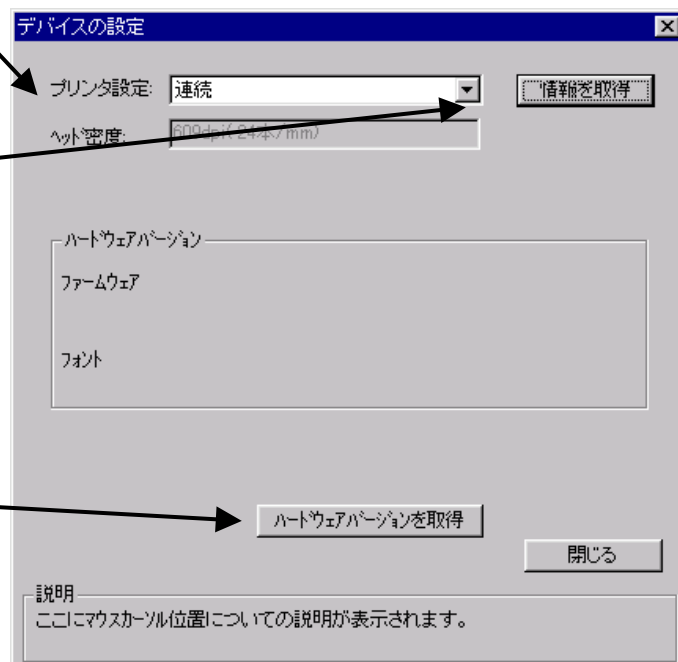


図 10-6. 「デバイスの設定」画面

11. ユーティリティ (SR400 シリーズのみ)

図 11 にユーティリティの設定画面を示します。ここでは以下のサブダイアログの表示を行います。

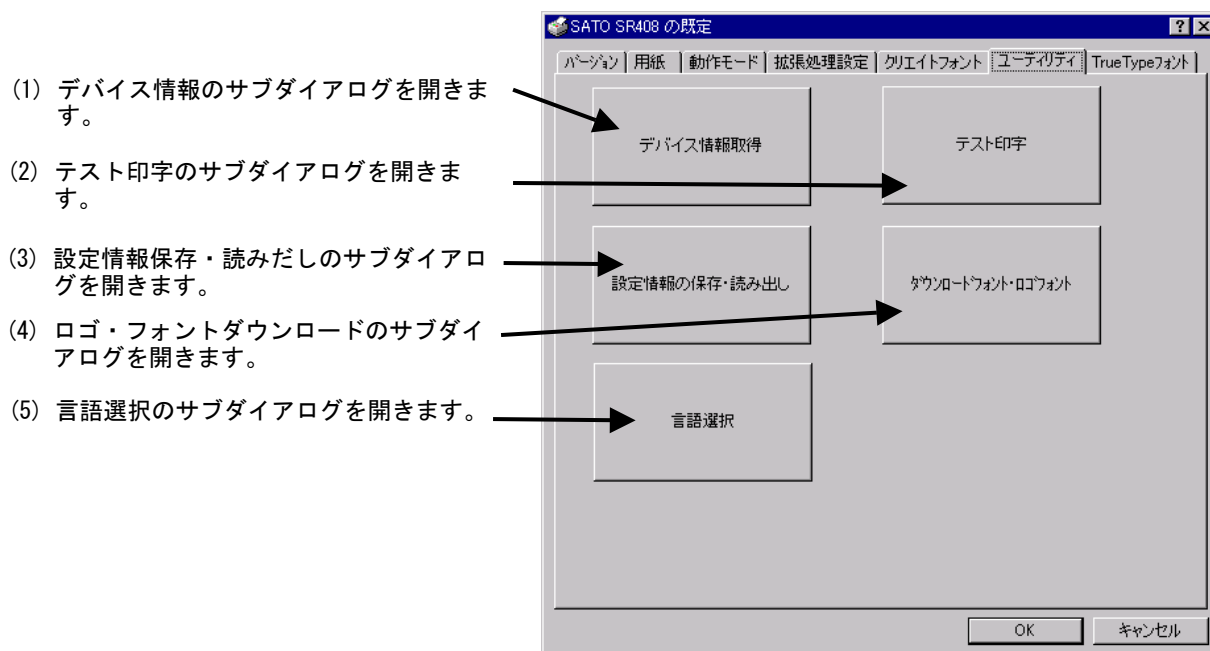


図 11. ユーティリティの設定画面

12. クリエイトフォント

図 12-1 に「クリエイトフォント」画面を示します。ここでは「装飾フォント」と「バーコードフォント」の設定を行います。

「装飾フォント」とは、レジデントフォントに対して倍率や回転角度、連番機能等を任意に設定し、それらの設定を反映させた状態のフォントを1つのフォントとして登録したものです。アプリケーションソフトの書類上にデータを入力し、そのデータのフォントを装飾フォントにすることにより、印字結果には倍率や回転角度、連番等の設定が反映されます（アプリケーションソフトの編集画面上には反映されません）。「バーコードフォント」とは、アプリケーションソフトの書類上に入力したデータのフォントをバーコードフォントにすることにより、印字の際にはそのデータがバーコード化されるというものです。

装飾フォントとバーコードフォントは合計 70 個まで登録可能です。

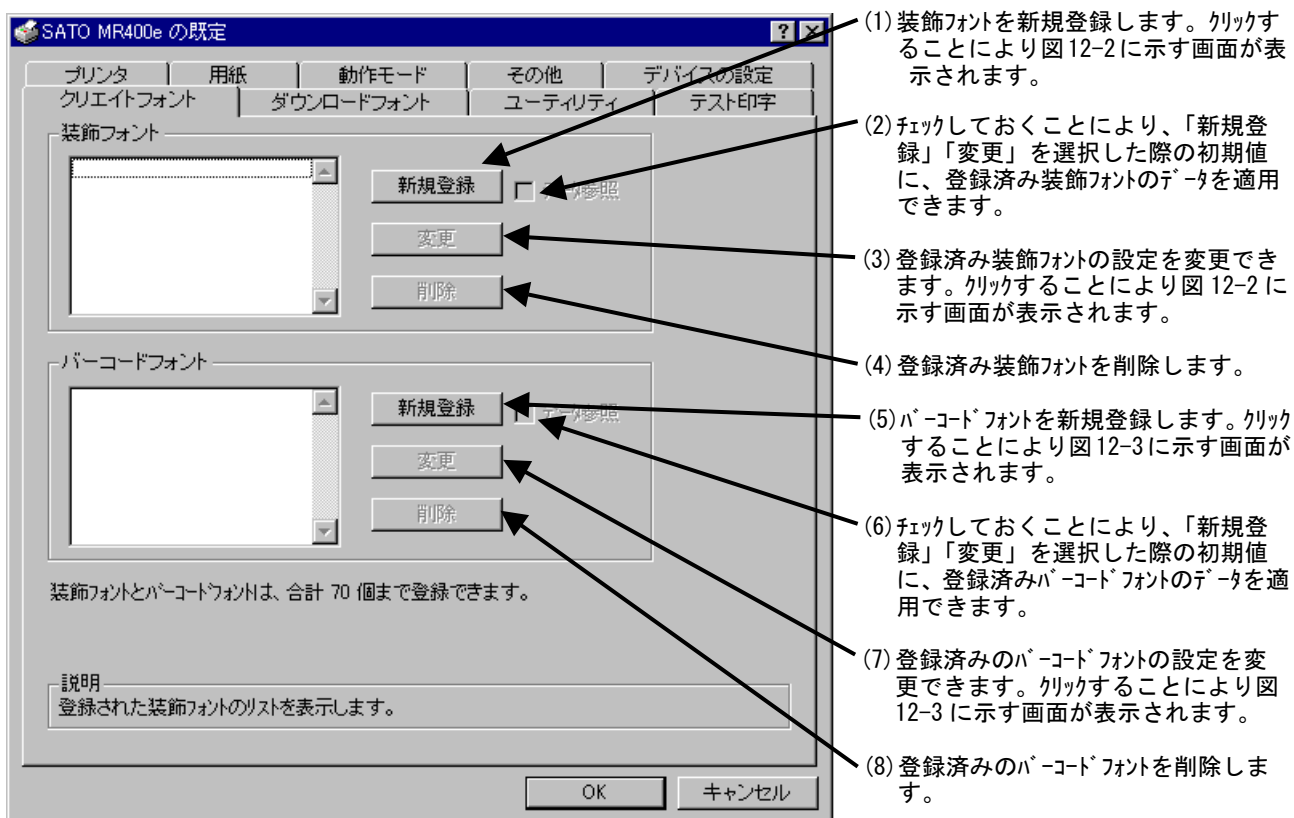


図 12-1. 「クリエイトフォント」画面

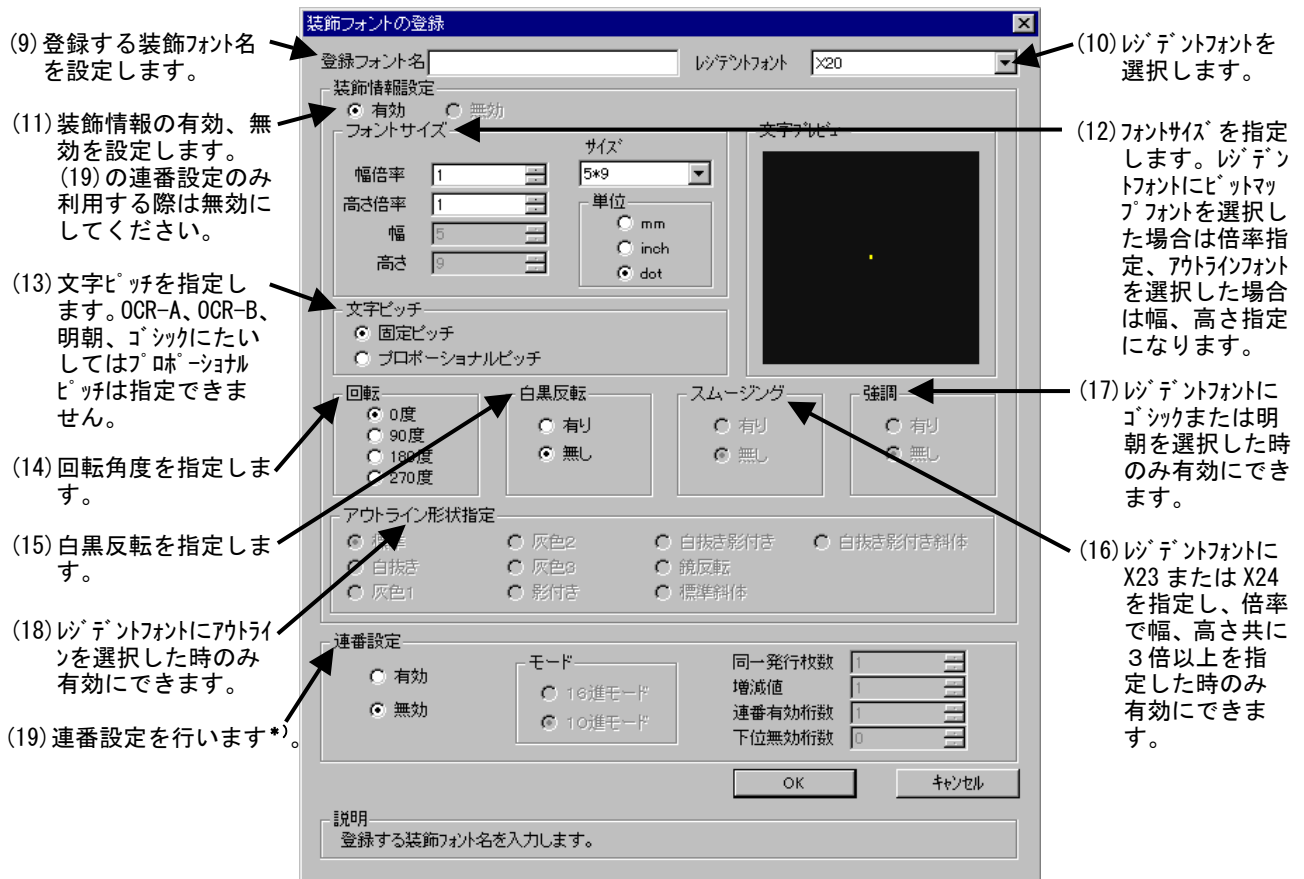


図 12-2. 「装飾フォントの登録」画面



図 12-3. 「バーコードフォントの登録」画面

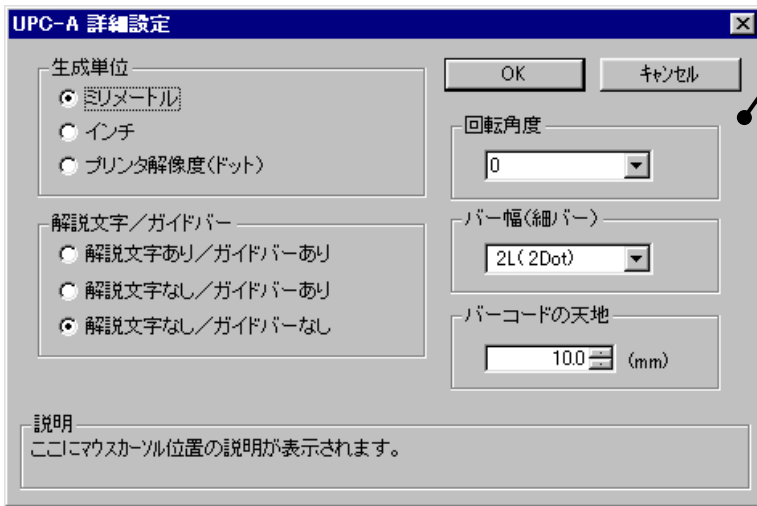


図 12-3 の(27)「バーコード種」で選択したバーコードに対応した詳細設定ダイアログが表示されます。以下に登録可能なバーコードの種類を示します。

- UPC-A
- UPC-E
- JAN-8/EAN-8
- JAN-13/EAN-13
- CODE39
- CODE93
- CODE128
- UCC/EAN-128
- インターリフト 2of5
- インターストリアル 2of5
- マトリックス 2of5
- NW-7
- カスタムバーコード
- QRコード (モデル 1)
- QRコード (モデル 2)
- QRコード (マイクロ QR)
- PDF417
- MAXIコード
- データマトリックスコード
- マイクロ PDF417

図 12-4. 「UPC-A 詳細設定」画面

*) 連番設定例

図 12-2(19)、図 12-3(29)の連番設定における各項目の内容を以下に示します。

- 有効・無効 : 連番設定を有効にするか無効にするか選択します。無効にする際は図 12-2(11)の装飾情報設定が有効になっている必要があります。
- 16進モード・10進モード : 連番の対象を16進数とみなすか10進数とみなすか設定します。
- 同一発行枚数 : 何枚発行する度に連番させるか設定します。
- 増減値 : 連番毎の加算値または減算値を設定します。
- 連番有効桁数 : 連番させる桁数を設定します。
- 下位無効桁数 : 連番させる最小桁以下の桁数を設定します。

モード : 16進モード 同一発行枚数 : 2 増減値 : 5 連番有効桁数 : 2 下位無効桁数 : 3
 印字データの初期値 : 00F8001とした場合
 連番有効桁は図 12-5 に示すようになります。

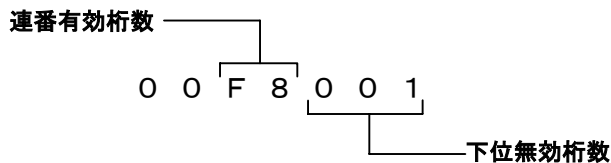


図 12-5. 連番有効桁

連番動作は図 12-6 に示すようになります。

発行枚数	印字データ	
1 枚目	00 <u>F8</u> 00 1	} 同一発行枚数 2
2 枚目	00 <u>F8</u> 00 1	
3 枚目	00 <u>FD</u> 00 1	
4 枚目	00 <u>FD</u> 00 1	
5 枚目	00 <u>02</u> 00 1	
6 枚目	00 <u>02</u> 00 1	
7 枚目	00 <u>07</u> 00 1	
8 枚目	00 <u>07</u> 00 1	

図 12-6. 連番動作

13. ダウンロードフォント

図 13 に「ダウンロードフォント」画面を示します。

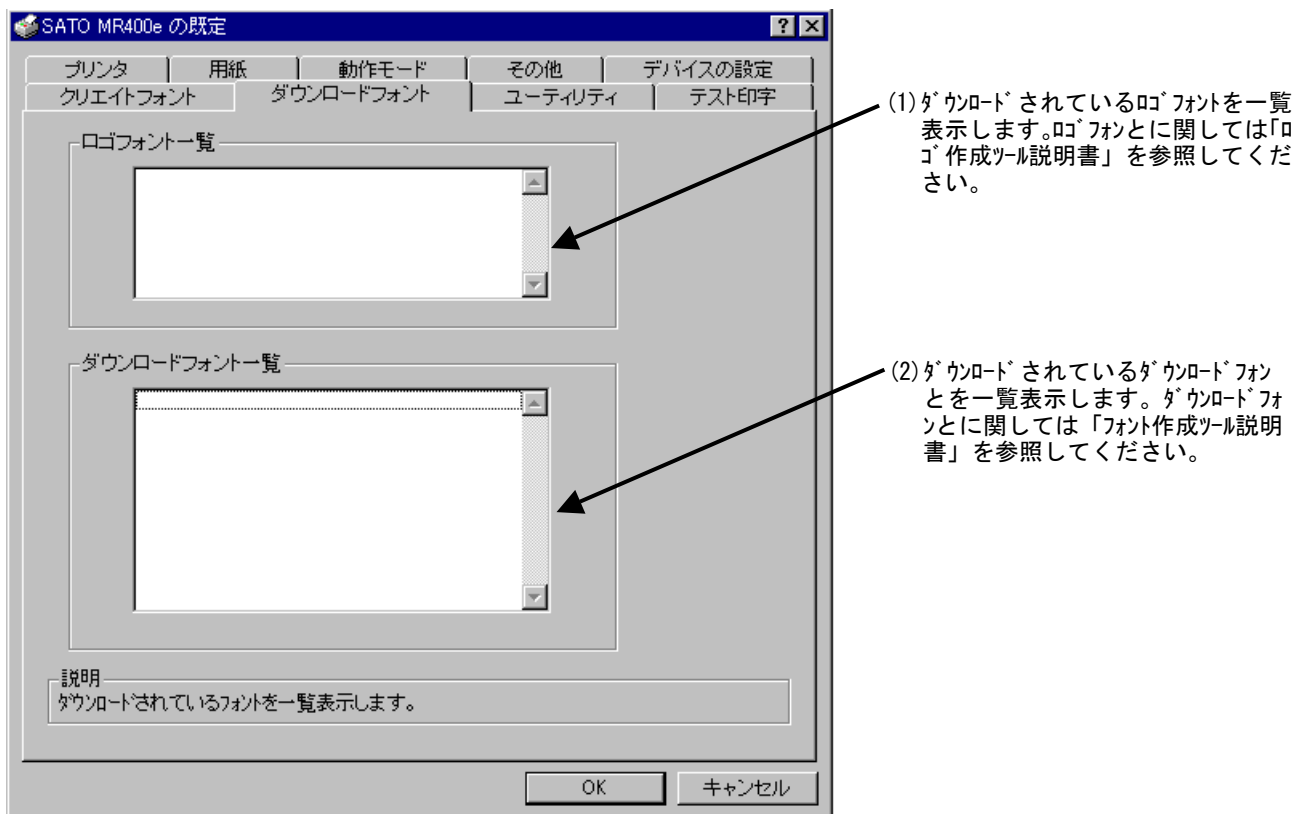


図 13. 「ダウンロードフォント」画面

※SR400 シリーズではサブダイアログとなりますが、機能は変わりません。

1 4. ユーティリティ (SR400 シリーズ以外)

図 14 に「ユーティリティ」画面を示します。ここではプロパティの各タブで設定した値をインシヤルファイルとして保存したり、保存されたインシヤルファイルを読み込むことにより、各設定を一括設定することができます。

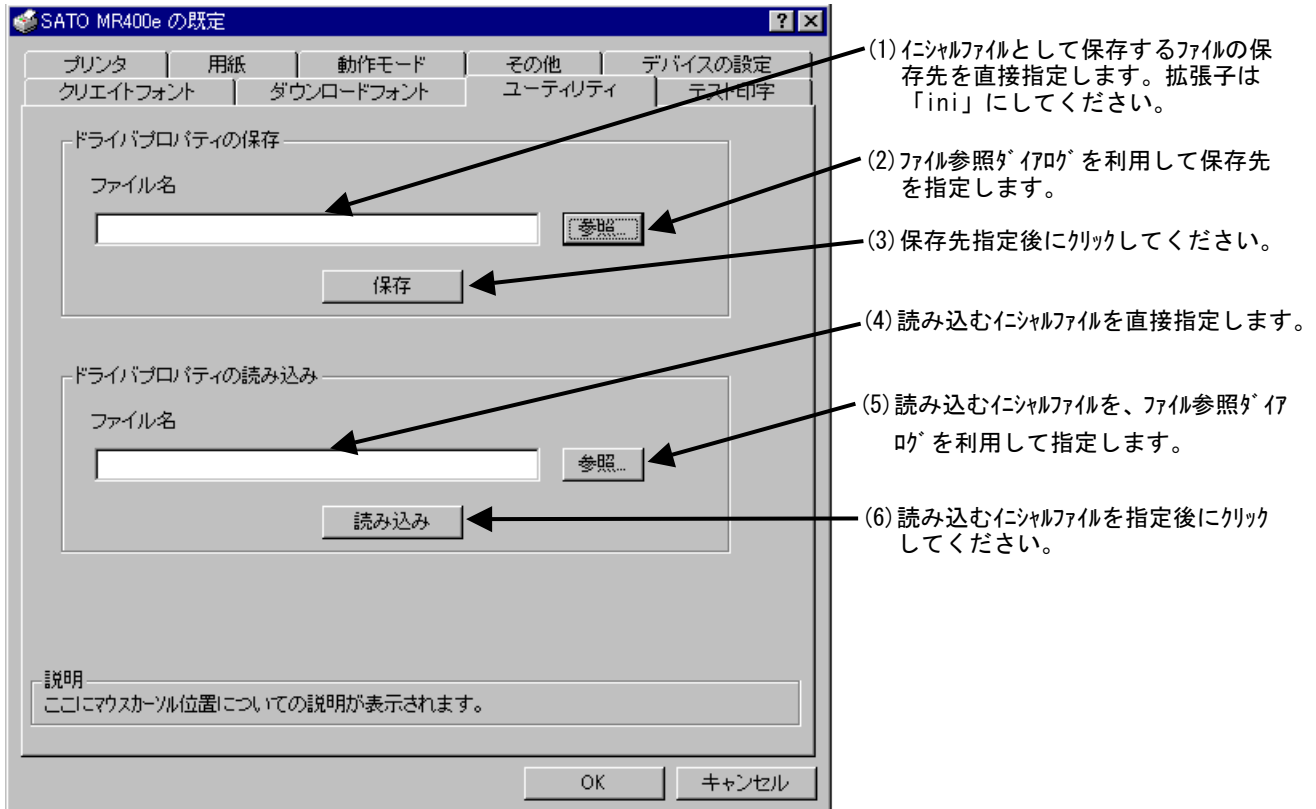


図 14. 「ユーティリティ」画面

15. プロパティの保存・読みだし

SR400 シリーズのみで使用する画面になります。

図 15 に「プロパティの保存・読みだし」画面を示します。ここではプロパティの各タブで設定した値をインシヤルファイルとして保存したり、保存されたインシヤルファイルを読み込むことにより、各設定を一括設定することができます。

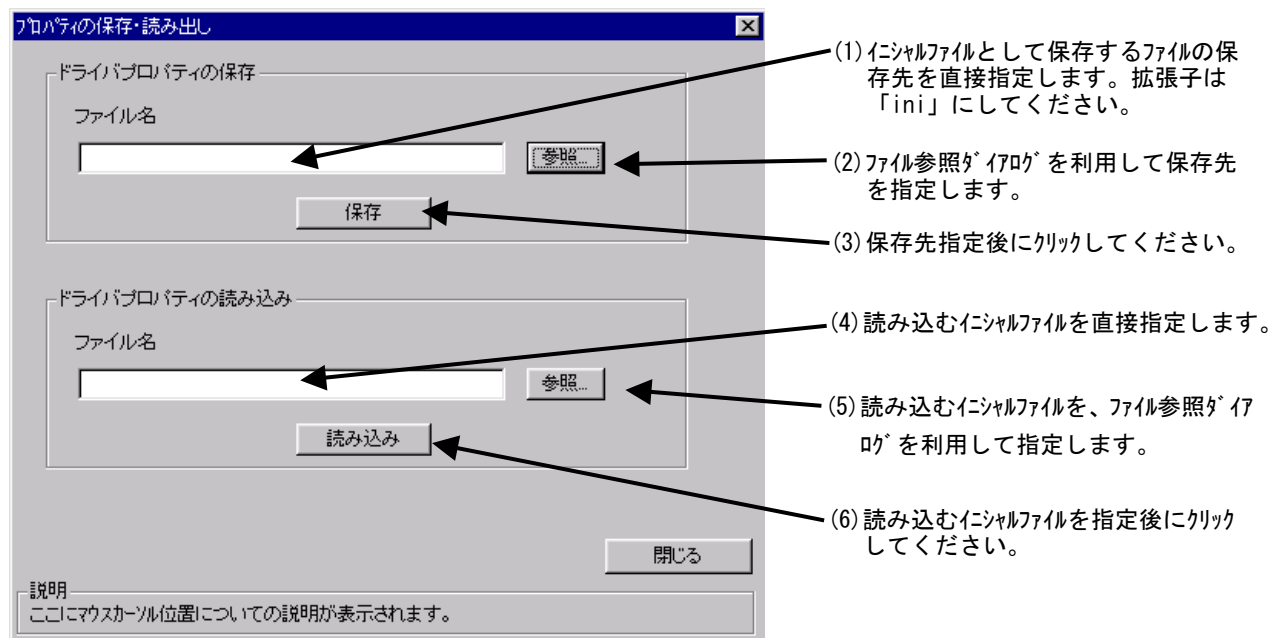


図 15. 「プロパティの保存・読みだし」画面

16. テスト印字

図 16 に「テスト印字」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。



図 16. 「テスト印字」画面

※SR400 シリーズでは、サブダイアログになりますが基本機能は変わりません。

17. 言語選択

SR400 シリーズでのみ使用する画面になります。

図 17 に「言語選択」画面を示します。ここでは以下の設定を行います。

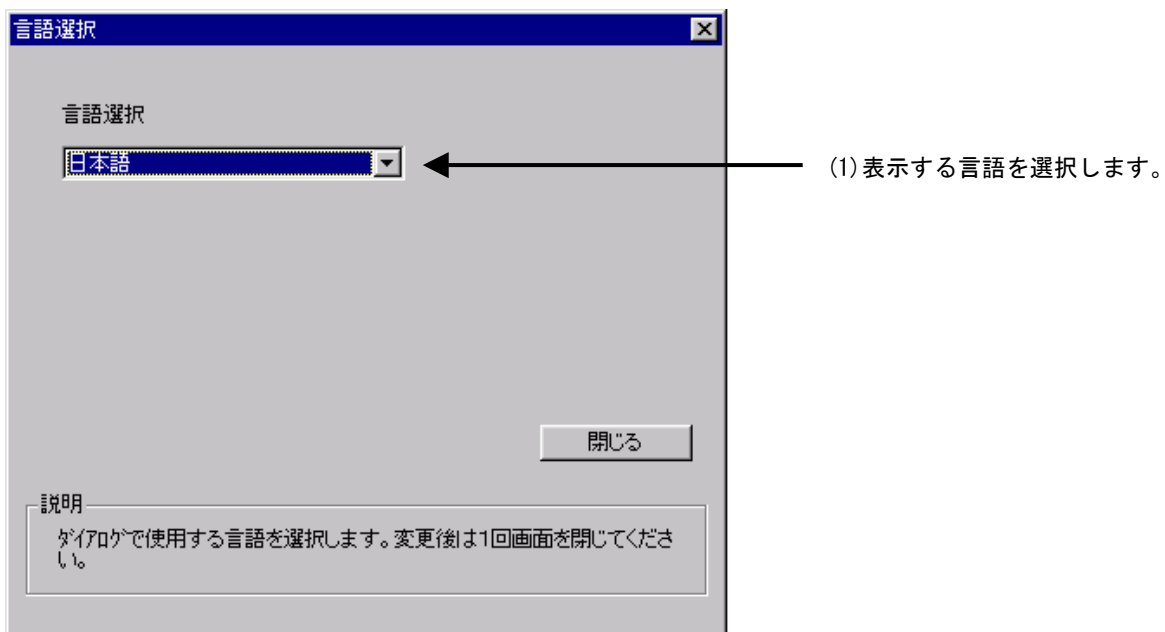


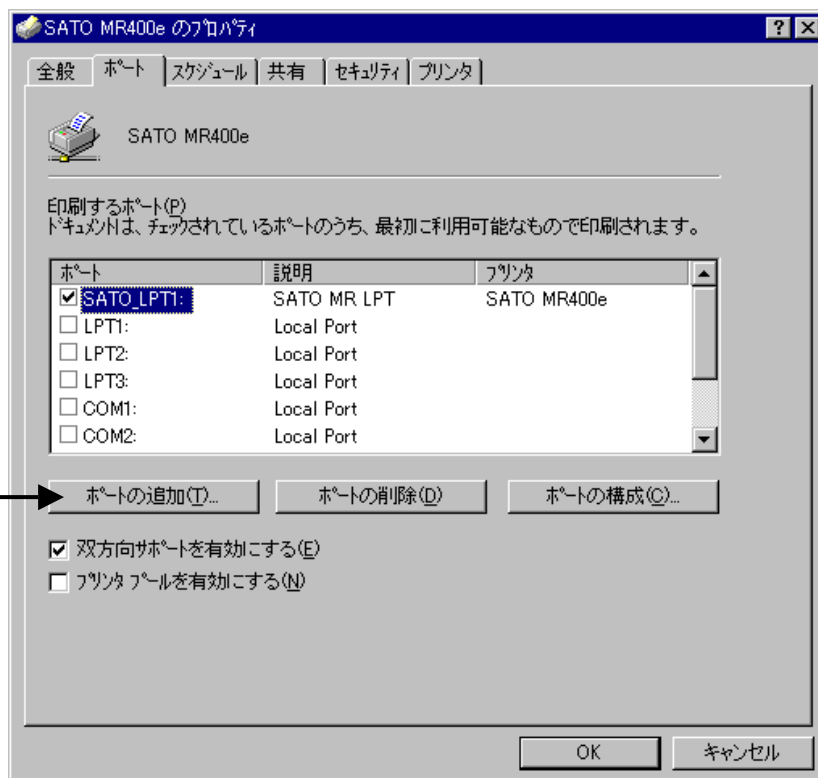
図 17. 「言語選択」画面

18. サトー専用ポートの追加設定手順

「印刷先のポート」に「サトー専用ポート」を選択すると、各ポートに対して詳細な設定が可能となります。以下にサトー専用ポートの追加手順と各ポートの設定手順を示します。

18-1. サトー専用ポートの追加手順

図 18-1-1 に「詳細」画面を示します。



(1) 「ポートの追加 (T) ...」をクリックしてください。図 18-1-2 に示すダイアログが表示されます。

(2) 「SATO MR ... Port Monitor」の中から、ご使用になる接続先デバイスに対応したものを選択し、「新しいポート (P) ...」ボタンをクリックしてください。図 18-1-3～図 18-1-5 に示すように、追加するポートに対応したダイアログが表示されます。

接続先デバイスが COM ポートのとき選択してください。

接続先デバイスが TCP/IP ポートのとき選択してください。

接続先デバイスが LPT ポートのとき選択してください。



図 18-1-2. 「ポート追加」ダイアログ

①シリアル (SATO MR COM) ポート



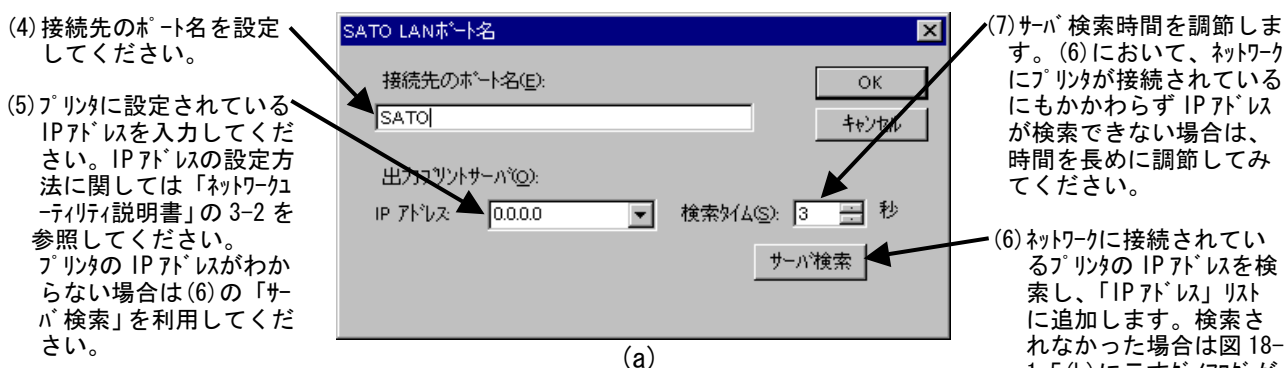
図 18-1-3. 「SATO COMポートの追加」ダイアログ

②IEEE1284 (SATO MR LPT) ポート

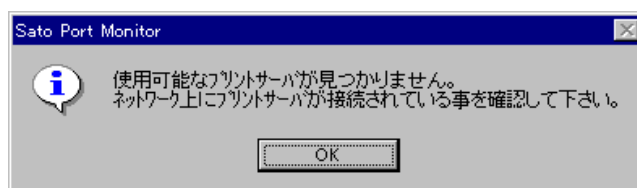


図 18-1-4. 「SATO LPTポートの追加」ダイアログ

③LAN (SATO MR TCP/IP) ポート



(a)



(b)

図 18-1-5. 「SATO LANポートの追加」ダイアログ

※ポート名は、他機種で使用していないポート名を指定する必要があります。
 同じポート名を使用した場合には、他機種のポートが選択される場合があります。

18-2. サトー専用ポート設定手順

図 18-2-1 に「ポート」画面を示します。

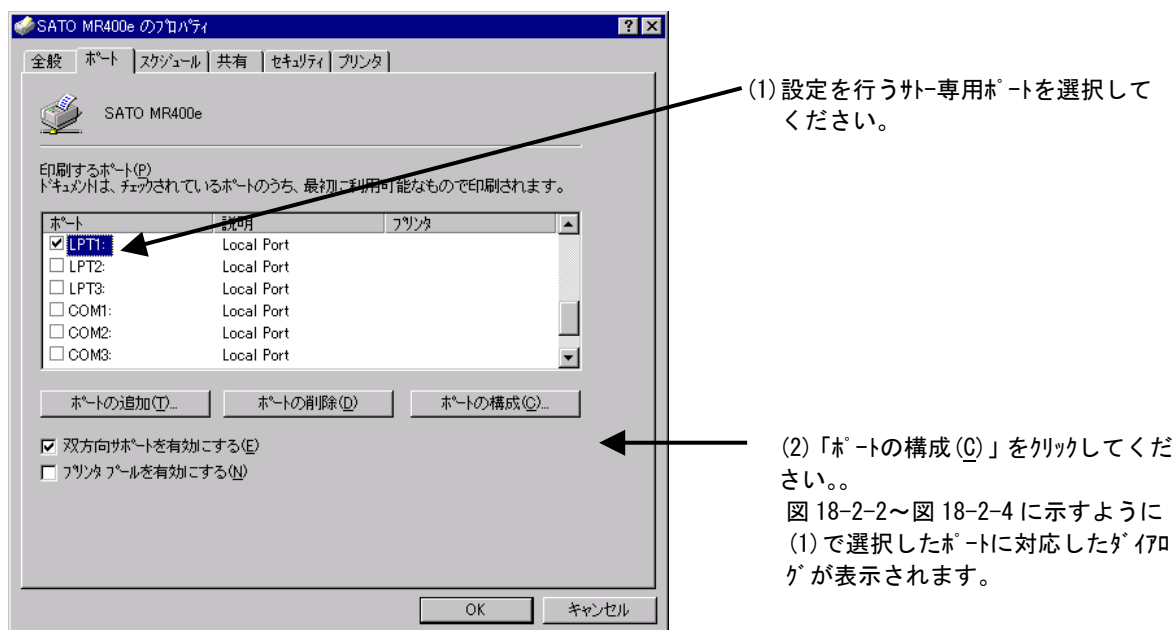
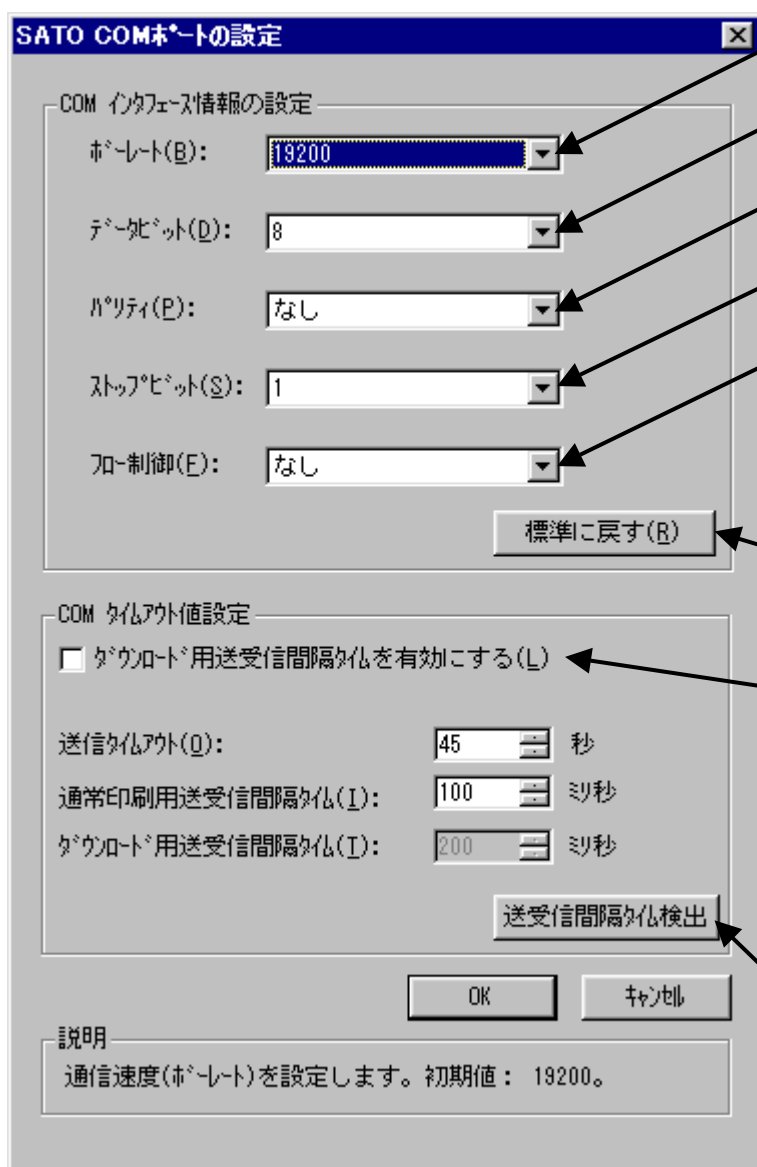


図 18-2-1. 「ポート」画面

①シリアル (SATO MR COM) ポート

図 18-2-2 に「SATO COMポートの設定」ダイアログを示します。



(a)

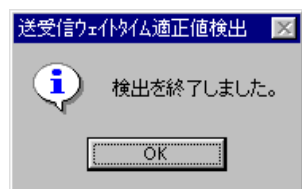
- (1) ボーレートを選択します*。
- (2) データビット数を選択します*。
- (3) パリティビットを選択します*。
- (4) ストップビットを選択します*。
- (5) フロー制御を選択します*。

*) (1) ~ (5) の設定値はプリンタ側の設定値と等しくしてください。プリンタ側の設定はシリアルインタフェースボードのディップスイッチにて行います。

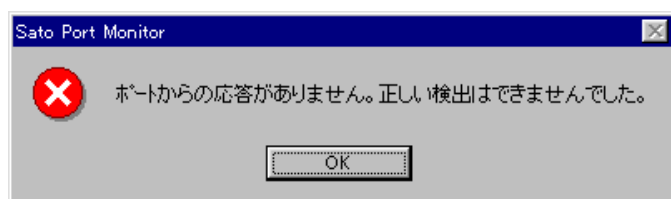
(6) 設定を初期値にします。
 ボーレート : 19200 データビット : 8
 パリティ : なし ストップビット : 1
 フロー制御 : なし

(7) ダウンロード用送受信間隔タイムアウトを設定する時にチェックしてください。これはフォント作成ツール、ロゴ作成ツールを使用して、フォント、ロゴをプリンタにダウンロードする時に、プリンタとのステータスを確実にを行うための指定です。チェックすることにより、「ダウンロード用送受信間隔タイム」のみが入力可能な状態になります。「フォント作成ツール」「ロゴ作成ツール」に関しては「フォント作成ツール説明書」「ロゴ作成ツール説明書」を参照してください。

(8) 送受信間隔タイム検出
 プリンタの電源を立ち上げた状態で「送受信間隔タイム検出」ボタンをクリックすると、プリンタとの送受信に対するタイムアウト値を適正な値にします。適正なタイムアウト値を検出したときは、図 18-2-2 (b) に示すダイアログが表示されます。適正な値にすることで、プリンタとの双方向通信応答速度が向上します。プリンタの電源が切れているとき、接続インタフェース設定が間違っているとき、インタフェースケーブルが接続されていないときは、送受信間隔タイム検出はできません (図 18-2-2 (c) に示すダイアログが表示されます)。



(b)



(c)

図 18-2-2. 「SATO COMポートの設定」ダイアログ

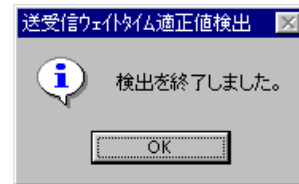
② IEEE1284 (SATO MR LPT) ポート

図 18-2-3 に「SATO LPTポートの設定」ダイアログを示します。

- (1)ダウンロード用送受信間隔タイムアウトを設定する時にチェックしてください。これはフォント作成ツール、ロゴ作成ツールを使用して、フォント、ロゴをプリンタにダウンロードする時に、プリンタとのステータスを確実にを行うための指定です。チェックすることにより、「ダウンロード用送受信間隔タイム」のみが入力可能な状態になります。「フォント作成ツール」「ロゴ作成ツール」に関しては「フォント作成ツール説明書」「ロゴ作成ツール説明書」を参照してください。
- (2)プリンタの電源を立ち上げた状態で、「適正タイムアウト値検出」ボタンをクリックすると、プリンタとの送受信に対するタイムアウト値を適正な値にします。適正な値にすることで、プリンタとの双方向通信応答速度が向上します。適正なタイムアウト値を検出したときは、図 18-2-3 (b) に示すダイアログが表示されます。プリンタの電源が切れているとき、接続インターフェースが違っているとき、インターフェースケーブルが接続されていないときは、適正タイムアウト値検出はできません (図 18-2-3 (c) に示すダイアログが表示されます)。



(a)



(b)

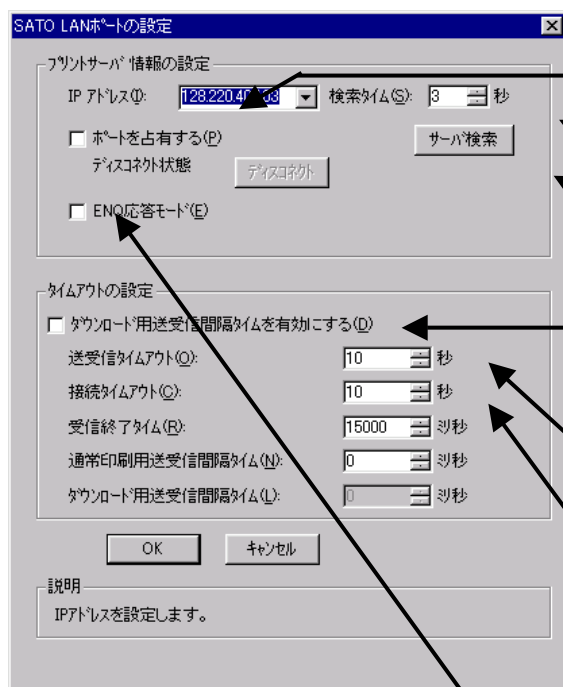


(c)

図 18-2-3. 「SATO LPTポートの設定」ダイアログ

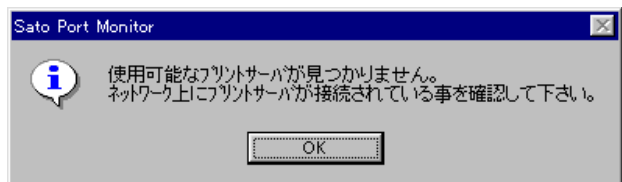
③ LAN (SATO MR LAN TCP/IP) ポート

図 18-2-4 に「SATO LANポートの設定」ダイアログを示します。



(a)

- (1) ネットワークに接続されているプリンタの IP アドレスを入力してください。IP アドレスの設定方法に関しては「ネットワークティリティ説明書」を参照してください。プリンタに設定されている IP アドレスがわからない場合は(2)の「サーバ検索」を利用してください。
- (2) ネットワークに接続されているプリンタの IP アドレスを検索し、「IP アドレス」リストに追加します。検索されなかった場合は図 18-2-4 (b) に示すダイアログが表示されますので指示に従ってください。
- (3) サーバ検索時間を調節します。(2)において、ネットワークにプリンタが接続されているにもかかわらず IP アドレスが検索されなかった場合は、時間を長めに調節してみてください。
- (4) 送受信のタイムアウト値を設定します。プリントサーバにデータ送信時、失敗した場合タイムアウト値まで送信を繰り返します。
- (5) プリントサーバへの接続時のタイムアウト値を設定します。
- (6) ダウンロード用送受信間隔タイムアウトを設定する時にチェックしてください。これはフォント作成ツール、ロゴ作成ツールを使用して、フォント、ロゴをプリンタにダウンロードする時に、プリンタとのステータスを確認を行うための指定です。チェックすることにより、「ダウンロード用送受信間隔タイム」のみが入力可能な状態になります。「フォント作成ツール」「ロゴ作成ツール」に関しては「フォント作成ツール説明書」「ロゴ作成ツール説明書」を参照してください。
- (7) ステータスチェックを ENQ 応答にする場合にチェックします。なお、プリンタ側の設定は、必ず同じにしてください。異なる設定の場合には、正常動作しません。



(b)

図 18-2-4. 「SATO LANポートの設定」ダイアログ

※SR400 シリーズは、使用するプロトコルが異なるため ENQ 応答のチェックボックスはありません。
 ※WAN 環境で使用する場合には、送受信タイムアウト値が初期値の 20 秒では足りない場合があります。その際には、タイムアウト値を伸ばしてください。